Panasonic®

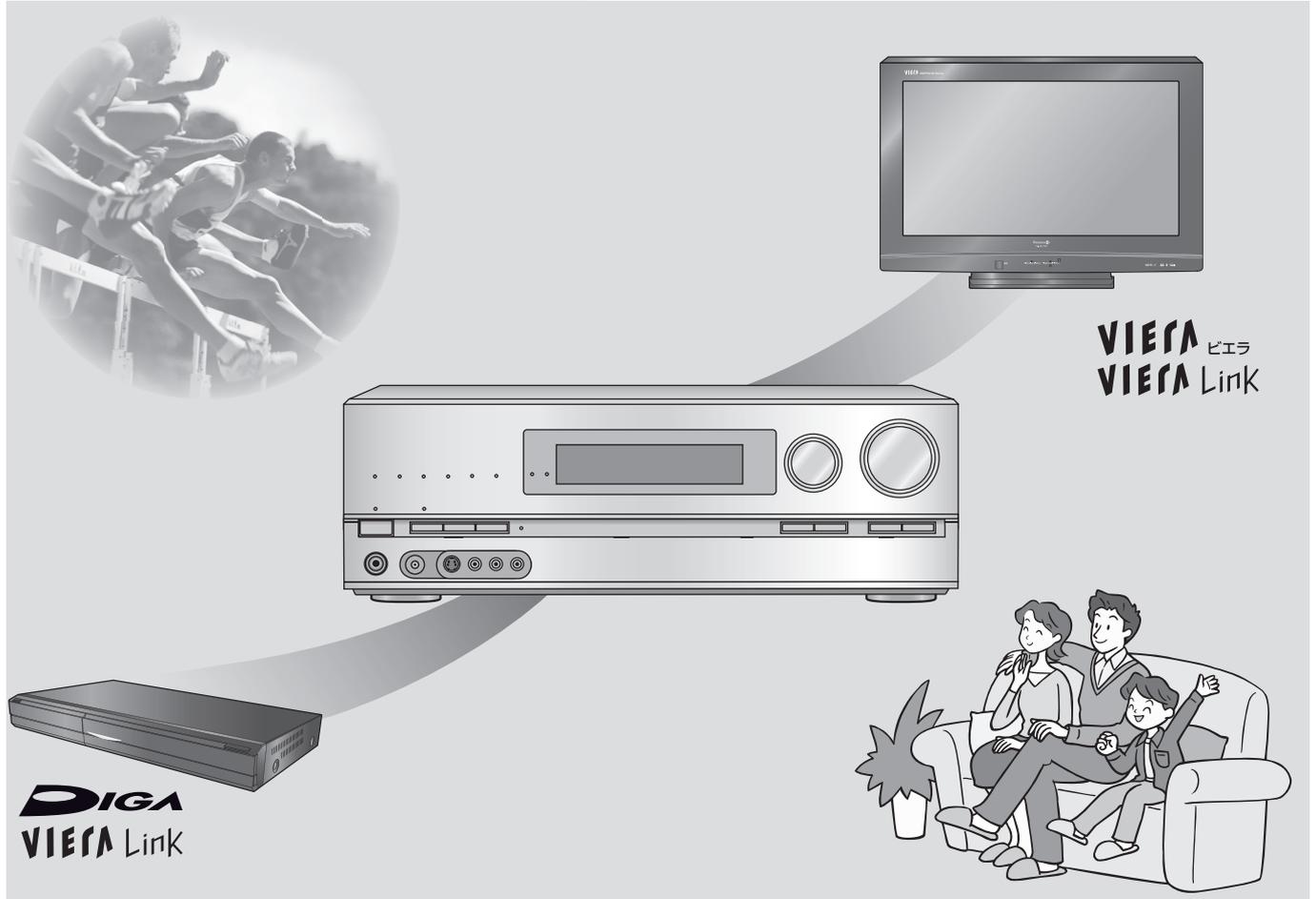
安全上のご注意

取扱説明書

AVコントロールアンプ

品番 SA-BX500

VIERA ビエラ
VIERA Link

DIGA
VIERA Link

かんたんガイド
まず
準備
楽しむ
お好みで
ご参考

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

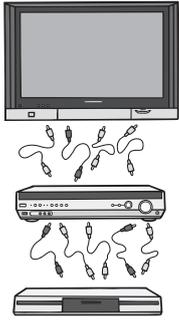
保証書別添付

● 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
● ご使用前に**「安全上のご注意」（→ 52、53ページ）を必ずお読みください。**
● 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

ホームシアターが簡単に楽しめる！

接続

今までは…

何本もの
ケーブルが必要

SA-BX500では!!

HDMIケーブル2本と
光デジタルケーブル
1本で簡単接続！
(➔ 10、11ページ)

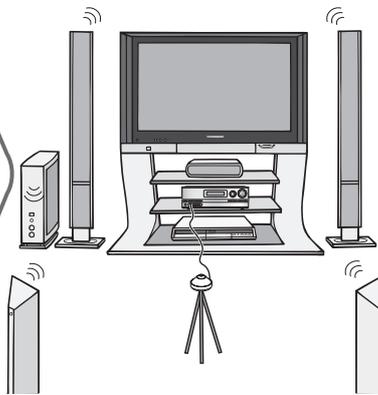
※他の接続もできます。

設定

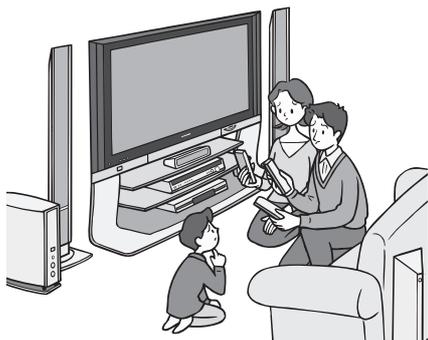
今までは…

スピーカーごとに
手動で設定

SA-BX500では!!

自動スピーカー設定で、
簡単にスピーカー設定
ができる！
(➔ 22、23ページ)

ビエラリンク（HDMI）

ビエラリンク（HDMI）対応のテレビ（ビエラ）とレコーダー（ディーガ）を接続すると…

複数の操作が必要だったホームシアター

ワンタッチ操作でホームシアターが楽しめる！（➔ 30、31ページ）

接続したすべてのスピーカーから音を出そう！！

1

テレビをサラウンドで
楽しむにはどうしたら
いいのかな。

2

テレビは2チャンネルの
ステレオ音声だから、
フロントスピーカーから
しか音が出ないんだ。

3

本体の［サラウンド］や
リモコンの［PLIIx NEO:6］［SFC 音楽］［映画］
を押すとサラウンドに
なるんだって。
(➔ 26、27ページ)

4

やった！！
テレビをサラウンド音声で
楽しめるね。

もくじ

「安全上のご注意」を必ずお読みください。（→ 52、53 ページ）

まず

かんたんガイド

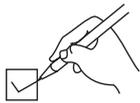
準備

楽しむ

お好みで

ご参考

付属品

付属品を確認してください。

●●お願い●●
- 付属品の買い替えは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- かっこ【　】内は、買い替え時の品番です。
（品番は2008年6月現在のものです。品番は変更されることがあります。）
- 電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
- 包装材料などは商品を取り出したあと、適切に処理をしてください。

付属品は販売店でお買い求めいただけます。
パナソニックグループのショッピングサイト「パナセンス」でお買い求めいただけるものもあります。
詳しくは「パナセンス」のサイトをご覧ください。

http://www.sense.panasonic.co.jp

電源コード（1本）【K2CA2CB00002】

測定マイク（1コ）【L0CBAB000128】

FM簡易型アンテナ（1本）【RSA0007】

AMループアンテナ（1本）【N1DAAAA00002】

フロント端子カバー（1コ）【RGK2137-K】

リモコン用乾電池（単3形：2コ）

リモコン（1コ）【N2QAKB000071】

各部のはたらき

本体

表示部

本体後面

リモコン

- アンプの電源ボタン
- 入力ソースを切り換える (➔ 24、39 ページ)
- FM 局と AM 局を切り換える (➔ 44、45 ページ)
- チャンネル入力
  - テレビ/ケーブルテレビ (➔ 40 ページ)
  - ブルーレイディスク/DVD レコーダー (➔ 41 ページ)
  - ラジオ（➔ 44 ページ）
- トラックやチャプターを選ぶ
  - ブルーレイディスク/DVD レコーダー (➔ 41 ページ)
  - ブルーレイディスク/DVD プレーヤー (➔ 42 ページ)
- スピーカーの音声出力を確認する（➔ 12 ページ）/ 測定マイクを使用して設定する（➔ 22、23 ページ）/スピーカーの音量調整をする（➔ 29 ページ）
- サラウンド音声で聞く (➔ 26 ～ 28 ページ)
- 入力ソースの電源を「入/切」する/入力ソースを切り換える/リモコンの操作モードを切り換える (➔ 40 ～ 43 ページ)
- 8 チャンネル再生する (➔ 25 ページ)
- チャンネル選択
  - テレビ/ケーブルテレビ (➔ 40 ページ)
  - ブルーレイディスク/DVD レコーダー (➔ 41 ページ)
  - ラジオ (➔ 44 ページ)
- 音量を調整（➔ 12、13、24、39 ページ）
- 一時的に音を消す (➔ 29 ページ)
- 他の機器の操作 (➔ 31、40 ～ 42 ページ)
- サウンドメニューの操作 (➔ 32、33 ページ) / 初期設定の操作 (➔ 34 ページ)
- サウンドメニューの選択 (➔ 32、33 ページ)
- テレビの操作 (➔ 40 ページ)
- 情報を表示する (➔ 29 ページ)
- 初期設定項目に入る (➔ 34 ページ)

リモコンに乾電池を入れる

ふたのふちを押しながら開ける

⊕と⊖を確認！
(単 3 形)

ふたを閉めるときは、こちら側から先に入れる

リモコンの使いかた

リモコン受信部

30°　30°

正面で約 7 m 以内
(使用範囲は角度により異なります。)

送信部

使用上のお願い

- 受信部とリモコンの間に障害物を置かない。
- 受信部に直射日光やインバーター蛍光灯の強い光を当てない。
- 受信部と送信部のほこりに注意。

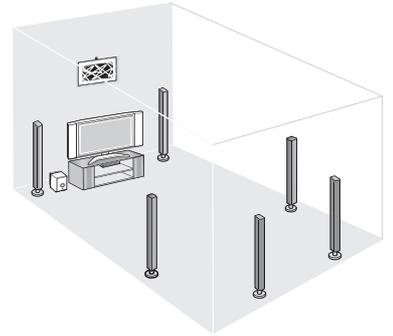
本体をラックに入れて使用する場合
ラックのガラス扉の厚さや色などによって、リモコンの動作範囲が短くなることがあります。

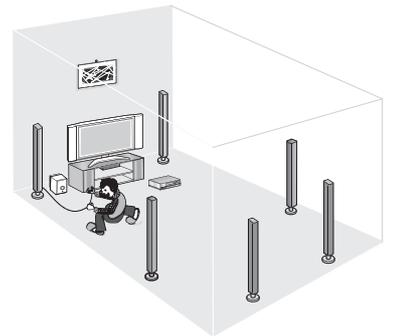
かんたんガイド

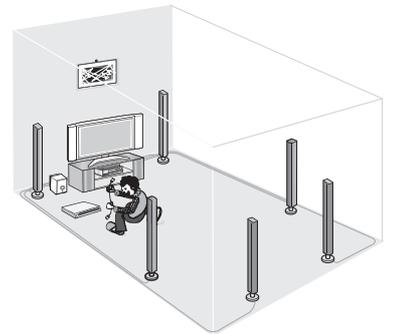
ホームシアターを楽しむための代表的な接続、再生方法を説明しています。

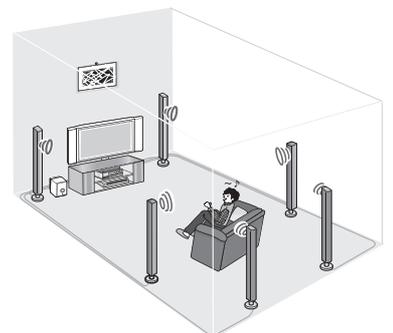
● 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
● 接続する各機器の説明書もご覧ください。
● 本機の上には物を載せないでください。

ステップ 1 スピーカーを設置する (→ 7 ページ)

正しい設置方法で、より良い音質が楽しめます。

ステップ 2 スピーカーを接続する (→ 8、9 ページ)

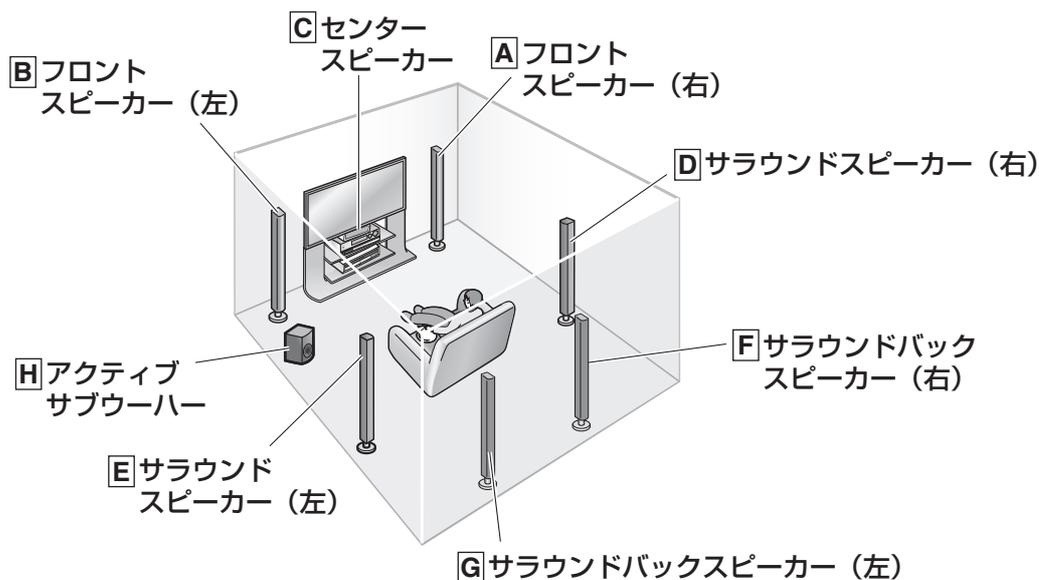
7.1 チャンネルの高音質音声を楽しむためのスピーカー接続ができます。

ステップ 3 HDMI ケーブルでテレビ、ブルーレイディスク/DVD レコーダーを接続する (→ 10、11 ページ)

HDMI 接続するにはテレビとブルーレイディスク/DVD レコーダーの両方に HDMI 端子が必要です。

ステップ 4 DVD やテレビを見る (→ 12、13 ページ)

DVD やテレビがサラウンドで楽しめます。

スピーカーを設置する

本機では、5.1、6.1、7.1 チャンネルなどの再生ができます。
このページでは、7.1 チャンネル再生のスピーカー設置を例に説明しています。
視聴位置から各スピーカー（サブウーハーを除く）を同じ距離に設置するのが理想です。
同じ距離に設置できない場合は各スピーカーと視聴位置との距離を測り、「距離の設定をする」（➔ 35 ページ）を行うか、または、「測定マイクを使って自動的にスピーカー設定をする」（➔ 22、23 ページ）を行ってください。

（配置列：フロント２本、センター１本、サラウンド２本、サラウンドバック２本、サブウーハー１本）

図中の A ～ H は次ページの「スピーカーを接続する」の A ～ H と対応しています。

フロントスピーカー（A 右、B 左）
テレビの左右に置き、視聴位置で（実際に椅子に座るなどして）映像と音声の動きが合うように、位置や角度を調整してください。

C センタースピーカー
テレビの真上か真下に置き、視聴位置での耳の高さへまっすぐに向けてください。
設置しない場合は、センターの音声はフロントスピーカーに分配されて出力されます。

サラウンドスピーカー（D 右、E 左）
視聴位置の左右（横またはやや後ろ）に設置してください。
設置しない場合は、サラウンドの音声はフロントスピーカーに分配されて出力されます。

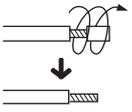
サラウンドバックスピーカー（F 右、G 左）
視聴位置の後ろに、耳の位置より 1 m ほど高く設置してください。
設置しない場合は、サラウンドバックの音声はサラウンドスピーカーまたは、フロントスピーカーに分配されて出力されます。

H アクティブサブウーハー
テレビから遠く離れない程度の適当な位置に置いてください。

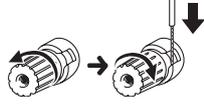
お知らせ
すべてのスピーカーは正面を視聴位置に向けて設置してください。

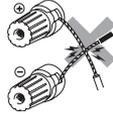
スピーカーを接続する

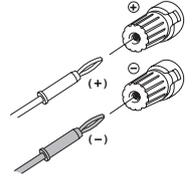
スピーカーコードの接続方法

1

スピーカーコードの先端のビニール部分は、ねじりながら抜き取ります。

2

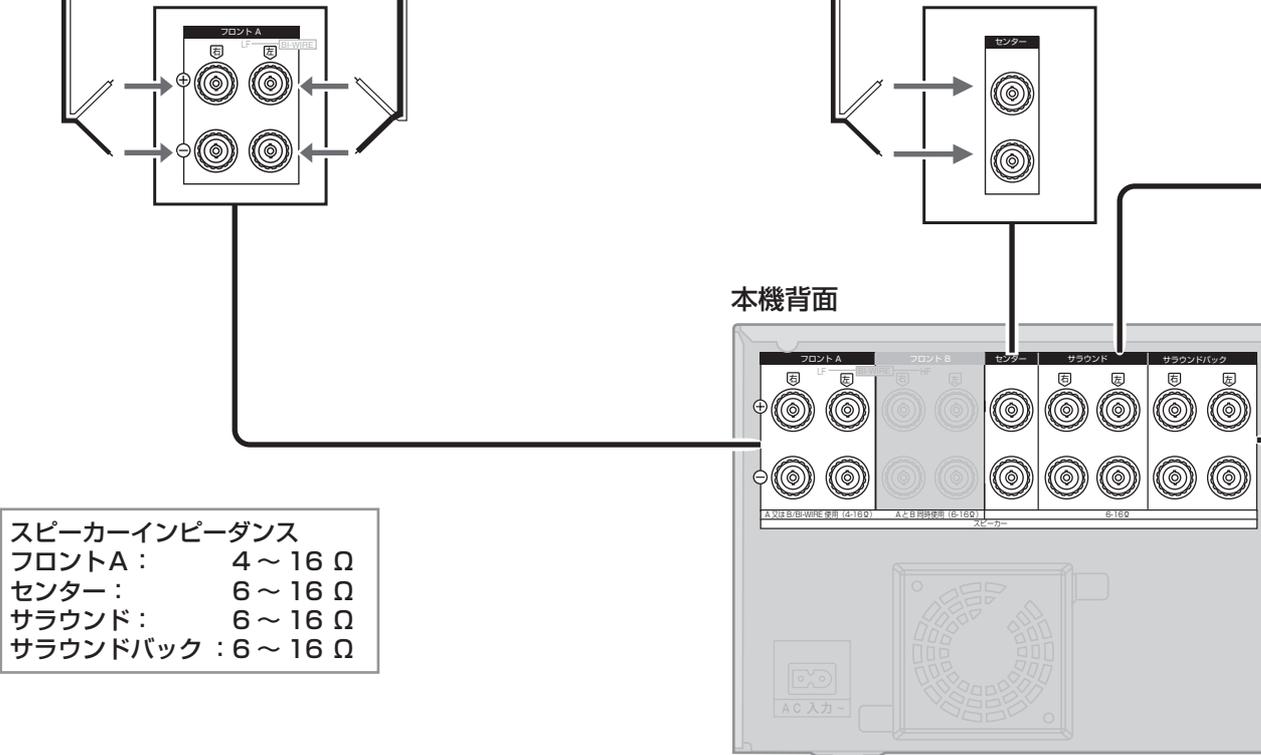
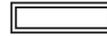
スピーカー端子

●●お願い●●

- 左、右と (⊕、⊖) をご確認の上、正しく接続してください。誤った接続をすると故障の原因になります。
- スピーカーコードをショートさせないでください。回路が破損する恐れがあります。

バナナプラグ（市販）の接続

スピーカー端子を右に回してしっかり締めつけ、端子の穴にプラグを挿入してください。

A フロントスピーカー（右）

B フロントスピーカー（左）

C センタースピーカー

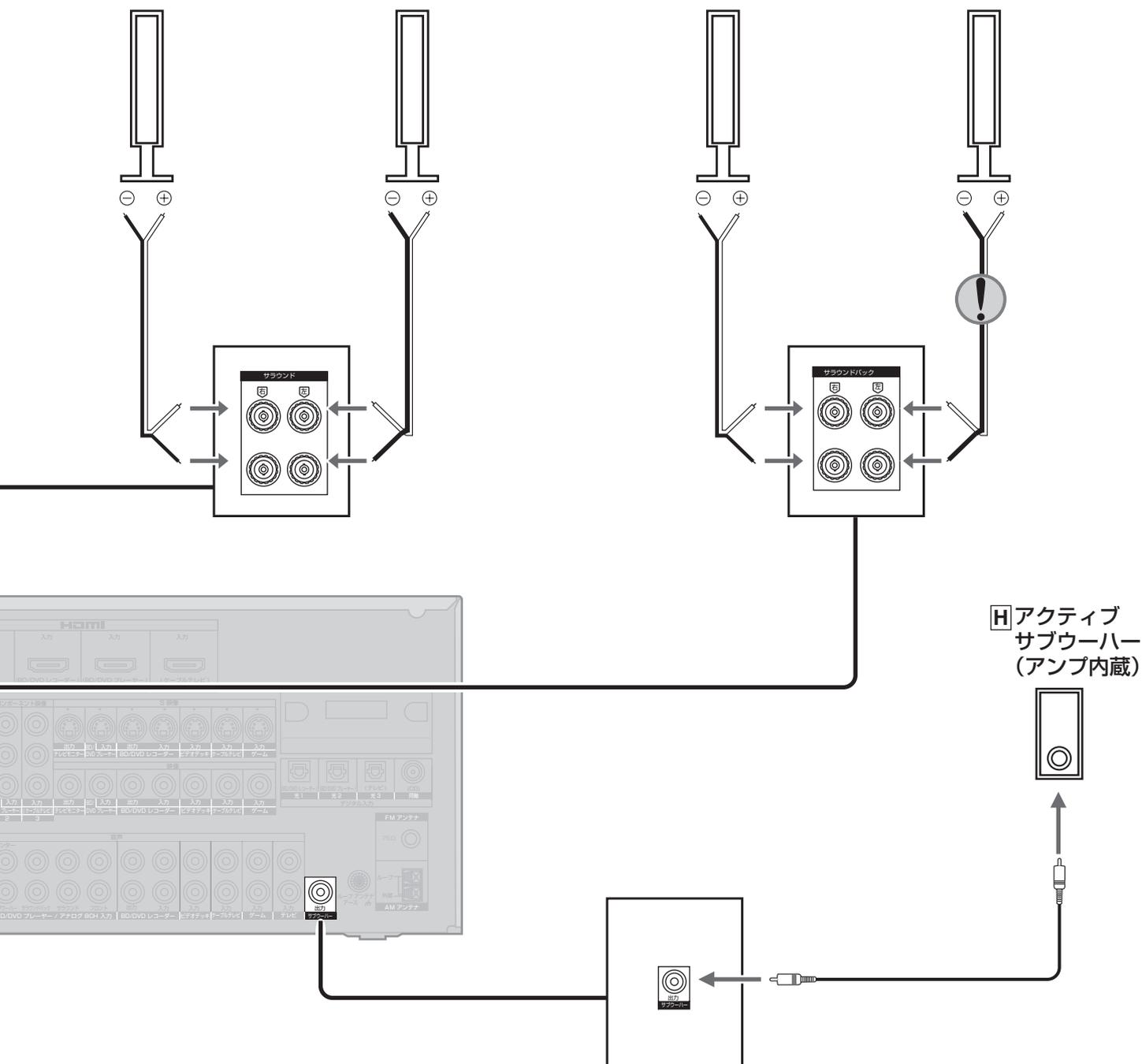
本機背面

スピーカーインピーダンス	
フロントA：	4 ～ 16 Ω
センター：	6 ～ 16 Ω
サラウンド：	6 ～ 16 Ω
サラウンドバック：	6 ～ 16 Ω

◯◯お知らせ◯◯

- スピーカーを新しく接続し直したときには、必ず「測定マイクを使って自動的にスピーカー設定をする」(➔ 22、23 ページ) を行ってください。
- インピーダンスが 4 Ωのスピーカーを接続する場合には、必ず 36 ページの「スピーカーのインピーダンス設定をする」で“***4 OHMS***”に設定してください。

使用するケーブル

スピーカーコード（別売）	モノラルピンコード（別売）

6.1 チャンネル再生のスピーカー設置にするときは、サラウンドバックスピーカーを（左）側のスピーカー端子に接続してください。

HDMI ケーブルでテレビ、ブルーレイディスク/DVD レコーダーを接続する

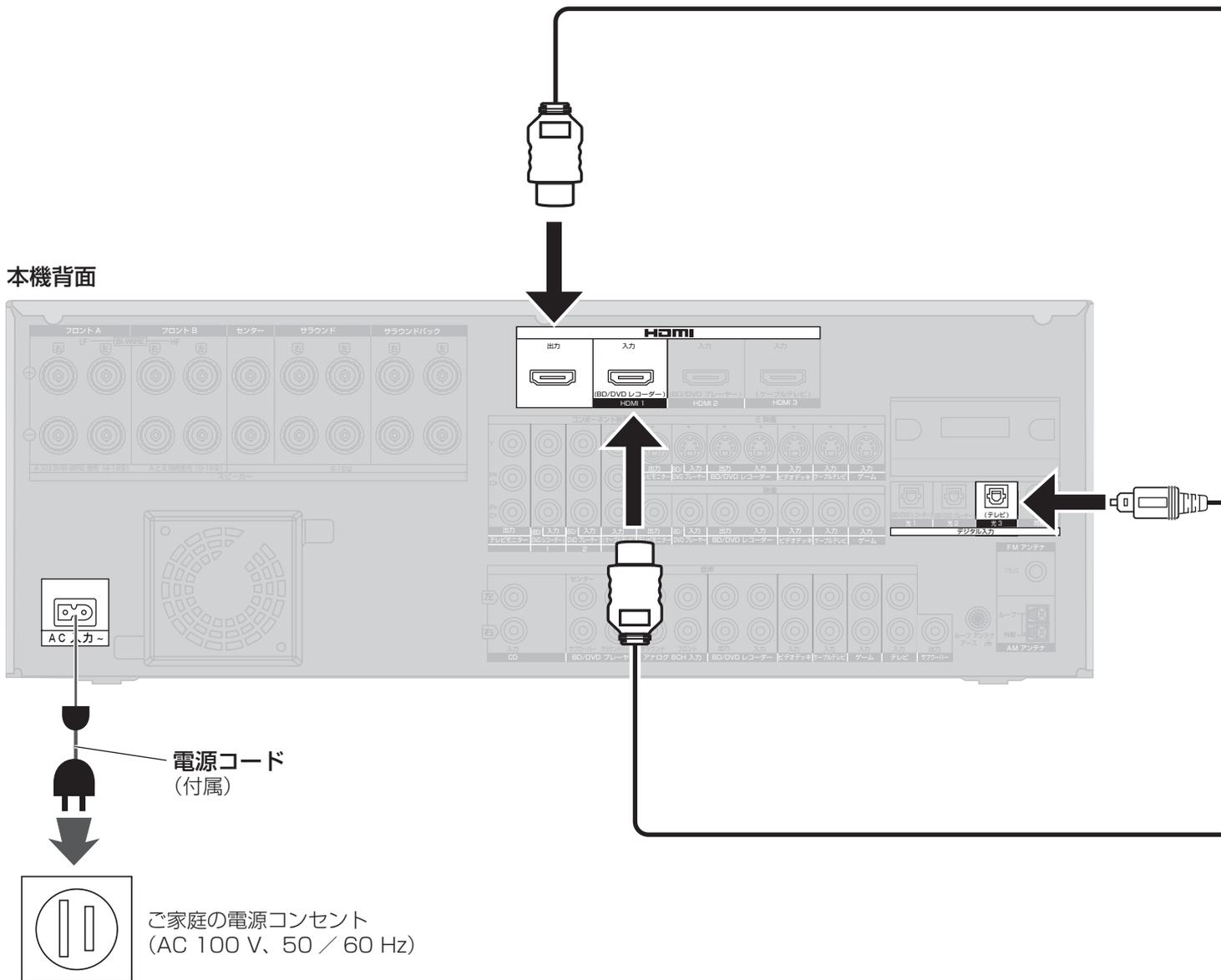
使用するケーブル

映像と音声	HDMI ケーブル（別売） • 当社製 HDMI ケーブルを推奨します。 [品番：RP-CDHG10（1.0 m）、RP-CDHG15（1.5 m）、RP-CDHG20（2.0 m）、RP-CDHG30（3.0 m）など]	音声	光デジタルケーブル（別売） [品番：RP-CA2010（1.0 m）など] 角形

別売品の品番は、2008 年 6 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

本機背面

電源コード
（付属）

ご家庭の電源コンセント
（AC 100 V、50 ／ 60 Hz）

電源コードは、他の接続がすべて終わってから、最後にコンセントへ接続してください。

- 電源プラグをコンセントに接続した状態で約 0.6 W の電力を消費しています。長期間使用しないときは抜いておいてください。
- 電源プラグを抜いても、本機の各種設定は記憶されます。

別売品は販売店でお買い求めいただけます。
パナソニックグループのショッピングサイト「パナセンス」でお買い求めいただけるものもあります。
詳しくは「パナセンス」のサイトをご覧ください。

http://www.sense.panasonic.co.jp

テレビ

HDMI 入力

デジタル音声出力（光）

テレビの音声をサラウンドで聞く場合に必要です。
- アナログ音声を出力するときは、14 ページの ⑧ の接続をしてください。
- テレビの音声をサラウンドで楽しむ場合に接続し、テレビのデジタル音声出力を "自動" に設定してください。

スタンバイスルー機能

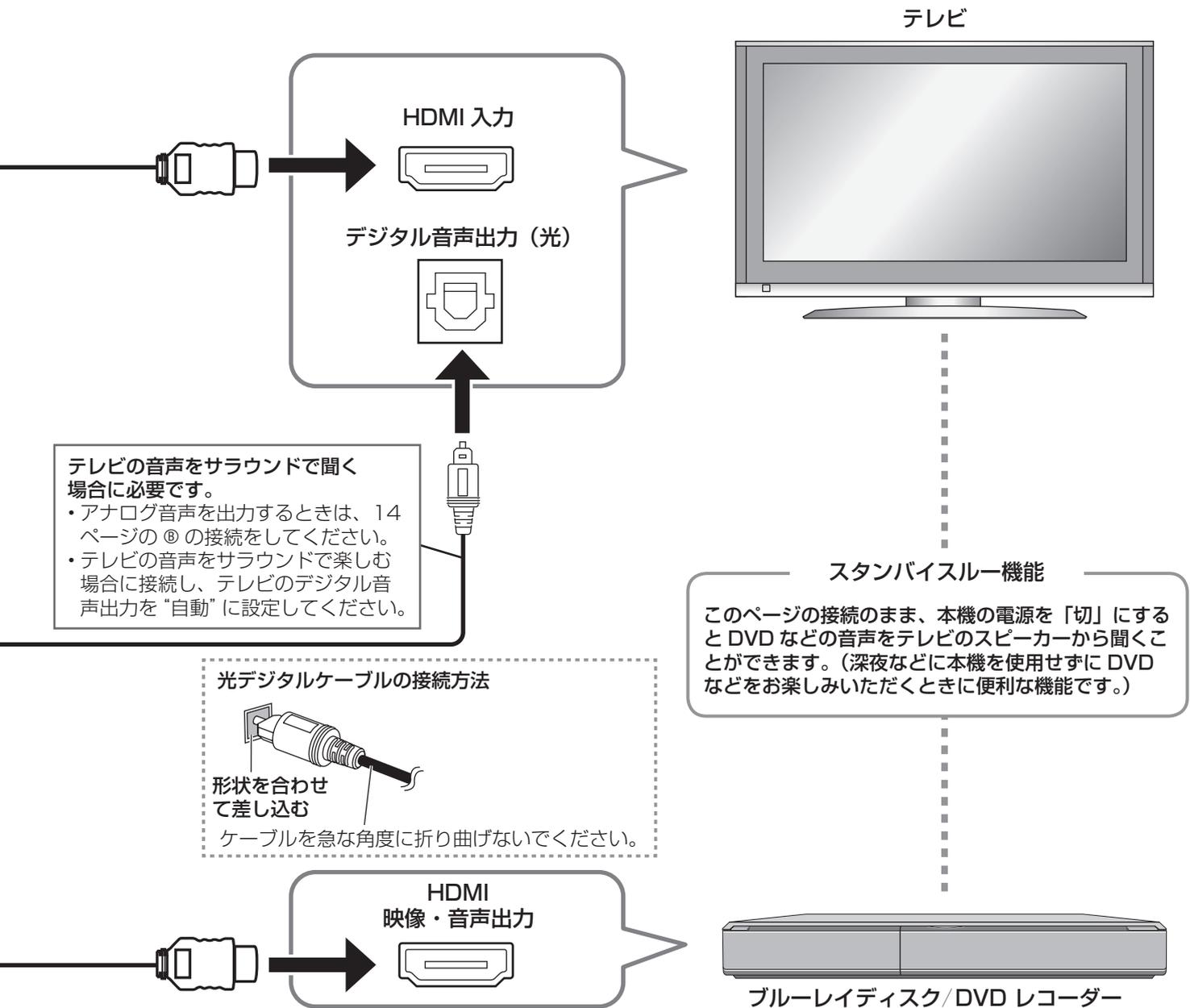
このページの接続のまま、本機の電源を「切」にすると DVD などの音声をテレビのスピーカーから聞くことができます。（深夜などに本機を使用せずに DVD などをお楽しみいただくときに便利な機能です。）

光デジタルケーブルの接続方法

形状を合わせて差し込む

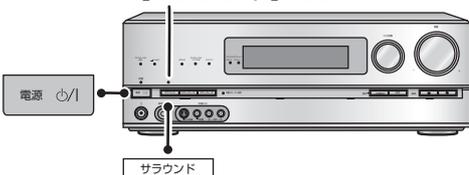
ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

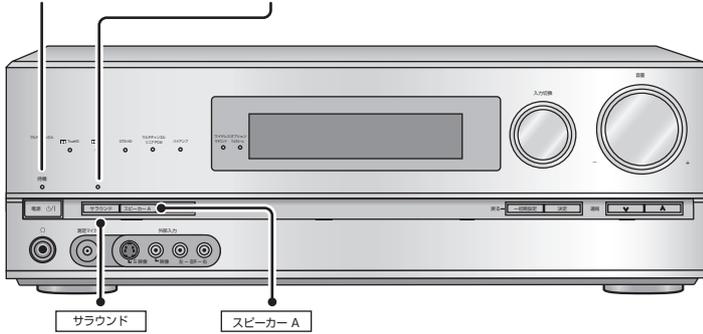
HDMI
映像・音声出力

ブルーレイディスク／DVD レコーダー

お知らせ

- HDMI ロゴ（➔ 表紙）のある「High Speed HDMI ™ ケーブル」をお買い求めください。
- 1080p 出力時は、5.0 m 以下の HDMI ケーブルをおすすめします。
- 本機は、ディープカラーをサポートしています。
- HDMI 端子とデジタル端子（➔15 ～ 18 ページ）の両方を接続している場合、HDMI の音声信号が優先されます。

接続が終わったら

1. ［電源 ⏻/I］を押して、本機の電源を入れる。
2. ［サラウンド］を押して、サラウンド再生になるように設定してください。（➔ 27 ページ）
   - 設定されると、［サラウンド］ランプが点灯します。
   - 2 チャンネルソースをサラウンド再生できます。

DVD やテレビを見る

準備 テレビの電源を入れ、本機を接続した入力（[HDMI] など）に切り換える。

スピーカーの音を確認する

テスト信号で、音声の出力を確認できます。

1. 電源 を押して、本機の電源を入れる
2. 入力切換 で“*TV*”または“*BD/DVD R.*”以外の入力を選ぶ
3. ＋音量− で− 30 dB から− 35 dB 程度の音量にする
4. オート テスト を押して、接続したすべてのスピーカーから音が出ているか確認する
   - 下記の順にスピーカーが表示されます。（接続したスピーカーの表示のときのみテスト信号が出力されます。）

     L → C → R → RS → SBR → SBL → LS → SUBW

各スピーカーの音量がフロントスピーカーの音量とバランスが合わないと感じた場合は、29 ページを参照して、スピーカーの音量調整をしてください。

5. オート テスト を押して、テスト信号を止める
6. ＋音量− で通常聞く音量にする

1
本機の電源を入れる

電源
 を押す

- 電源を入れると［待機］ランプが消灯します。
- 本体の表示部に“A”が表示されているか確認してください。表示されていない場合は、［スピーカー A］を押してください。
- ［サラウンド］ランプが点灯していることを確認してください。点灯していない場合は、本体の［サラウンド］を押してサラウンド再生になるように設定してください。（➔ 11、27 ページ）

2
“*TV*”または“*BD/DVD R.*”を選ぶ

テレビ または BD/DVD レコーダー を押す

3
DVD を再生する または テレビのチャンネルを選ぶ

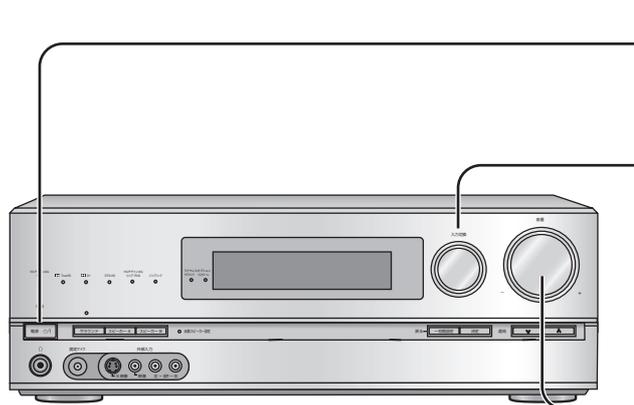
- いろいろな音質・音場効果を楽しむことができます。（➔ 26 ～ 28 ページ）

4
音量を調整する

＋ 音量 － を押す

音量の範囲：***– – dB***（最小）、***–79 dB*** ～ ***0 dB***（最大）

再生を楽しんだ後は
音量を下げてから［電源］を押して、電源を切ってください。

本体で操作する場合

1 **本機の電源を入れる**

2 **“*TV*”または“*BD/DVD R.*”を選ぶ**

3 **DVD を再生する またはテレビのチャンネルを選ぶ**

4 **音量を調整する**

接続する

● 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
● 接続する各機器の説明書もご覧ください。
● 本機の上には物を載せないでください。

基本の接続

HDMI 端子のある機器を接続する

使用するケーブル

映像 / 音声	音声	
HDMI ケーブル（別売） ［品番：RP-CDHG10（1.0 m）、 RP-CDHG15（1.5 m）、 RP-CDHG20（2.0 m）、 RP-CDHG30（3.0 m）など］	**光デジタルケーブル**（別売） ［品番：RP-CA2010（1.0 m）など］ 角形	**ステレオピンコード**（別売） ［品番：RP-CAP3G10（1.0 m）など ］ （左）白 （右）赤

別売品の品番は、2008 年 6 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

■ HDMI ケーブルについて

• 当社製 HDMI ケーブルを推奨します。
• HDMI ロゴ（➔ 表紙）のある「High Speed HDMI ™ ケーブル」をお買い求めください。
• 1080p 出力時は、5.0 m 以下の HDMI ケーブルをおすすめします。
• 本機は、ディープカラーをサポートしています。

テレビの音声をサラウンドで聞く場合は、お持ちの機器に合わせて Ⓐ または Ⓑ の接続をしてください。

テレビ

HDMI 入力

音声出力（右）（左）

デジタル音声出力（光）

本機背面

光デジタルケーブルの接続方法

形状を合わせて差し込む

ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

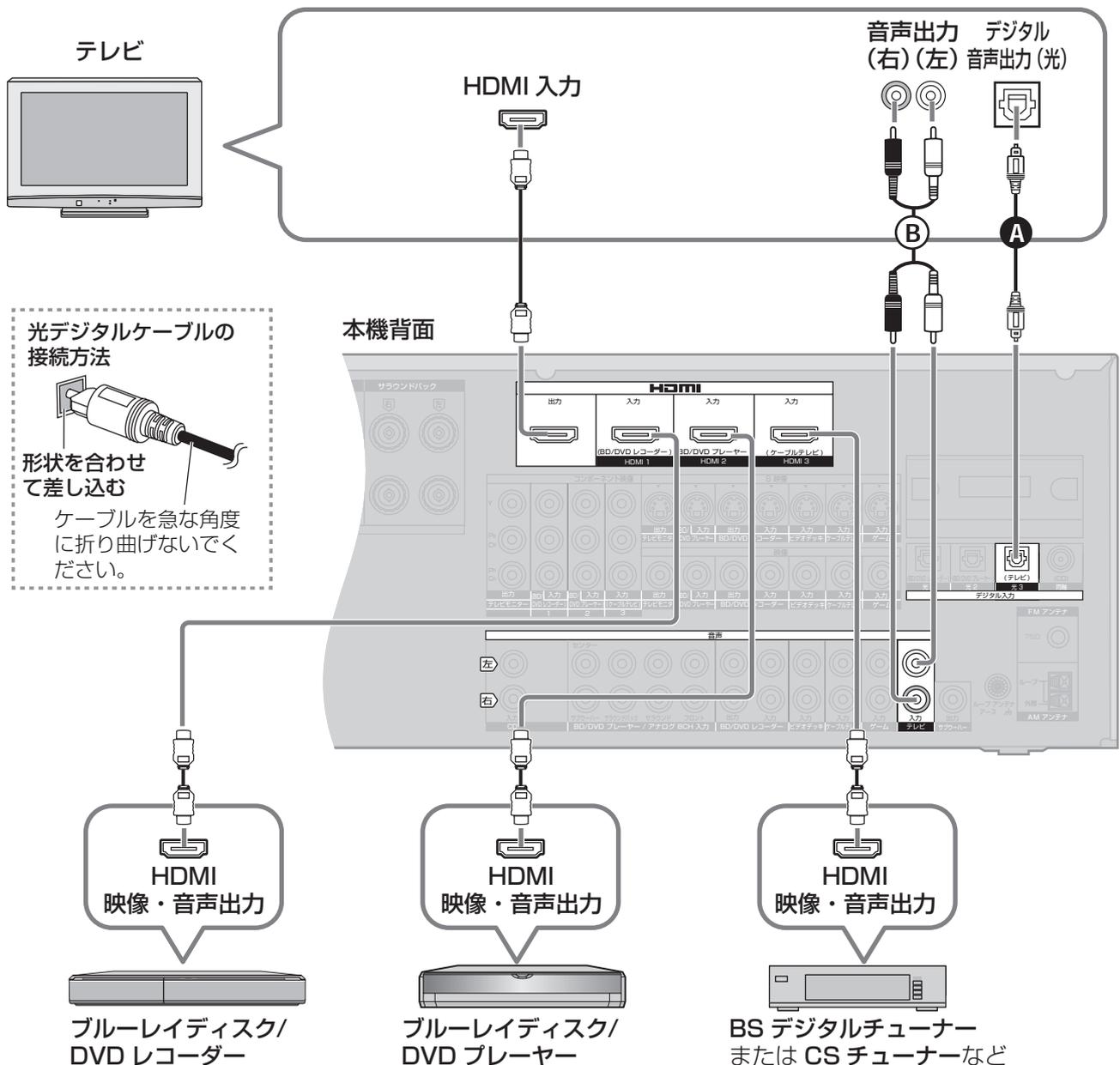
HDMI 映像・音声出力

ブルーレイディスク/DVD レコーダー

HDMI 映像・音声出力

ブルーレイディスク/DVD プレーヤー

HDMI 映像・音声出力

BS デジタルチューナー または CS チューナーなど

お知らせ

• HDMI 端子とデジタル端子（➔ 15 ～ 18 ページ）の両方を接続している場合、HDMI の音声信号が優先されます。
• HDMI 3 端子の設定は、接続する機器に応じて変更できます。(➔ 37 ページ）

別売品は販売店でお買い求めいただけます。
パナソニックグループのショッピングサイト「パナセンス」でお買い求めいただけるものもあります。
詳しくは「パナセンス」のサイトをご覧ください。

http://www.sense.panasonic.co.jp

映像・音声端子に接続する（HDMI 端子のない機器を接続する）

使用するケーブル

映像	音声	
ビデオコード（別売） [品番：RP-CVP0G10（1.0 m）など]	光デジタルケーブル（別売） [品番：RP-CA2010（1.0 m）など] 角形	ステレオピンコード（別売） [品番：RP-CAP3G10（1.0 m）など] （左）白 （右）赤

別売品の品番は、2008 年 6 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

光デジタルケーブルの接続方法

形状を合わせて差し込む

ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

テレビ

映像入力

テレビの音声をサラウンドで聞く場合は、お持ちの機器に合わせて 14 ページの Ⓐ または Ⓑ の接続をしてください。

本機背面

① デジタル音声出力（光）　映像出力

② （右）（左）音声出力　映像出力

ブルーレイディスク/DVD プレーヤー

ブルーレイディスク/DVD レコーダー

ビデオデッキ

BS デジタルチューナーまたは CS チューナー

ゲーム機

☞ **ビデオデッキ一体型 DVD レコーダーを接続する場合**　（DVD/VHS 専用端子がある場合の接続です。）
DVD 専用出力端子側は上記 ① の接続をしてください。DVD/VHS 専用出力端子側は上記 ② の接続をしてください。

お知らせ

- HDMI 接続 (➔ 10、11、14 ページ) をしている場合には、この接続は不要です。
- 入力された映像信号は同じタイプの出力端子からしか出力されません。
- デジタル入力端子の設定は、接続する機器に応じて変更できます。(➔ 37 ページ)

■ **基本の接続で再生ができます。(➔ 24 ページ)**

さらに 高画質接続がしたいときは（➔ 16、17 ページ）

さらに アナログ音声を楽しみたいときは（➔ 18 ページ）

さらに その他の機器などを接続したいときは（➔ 18 ～ 21 ページ）

接続する（つづき）

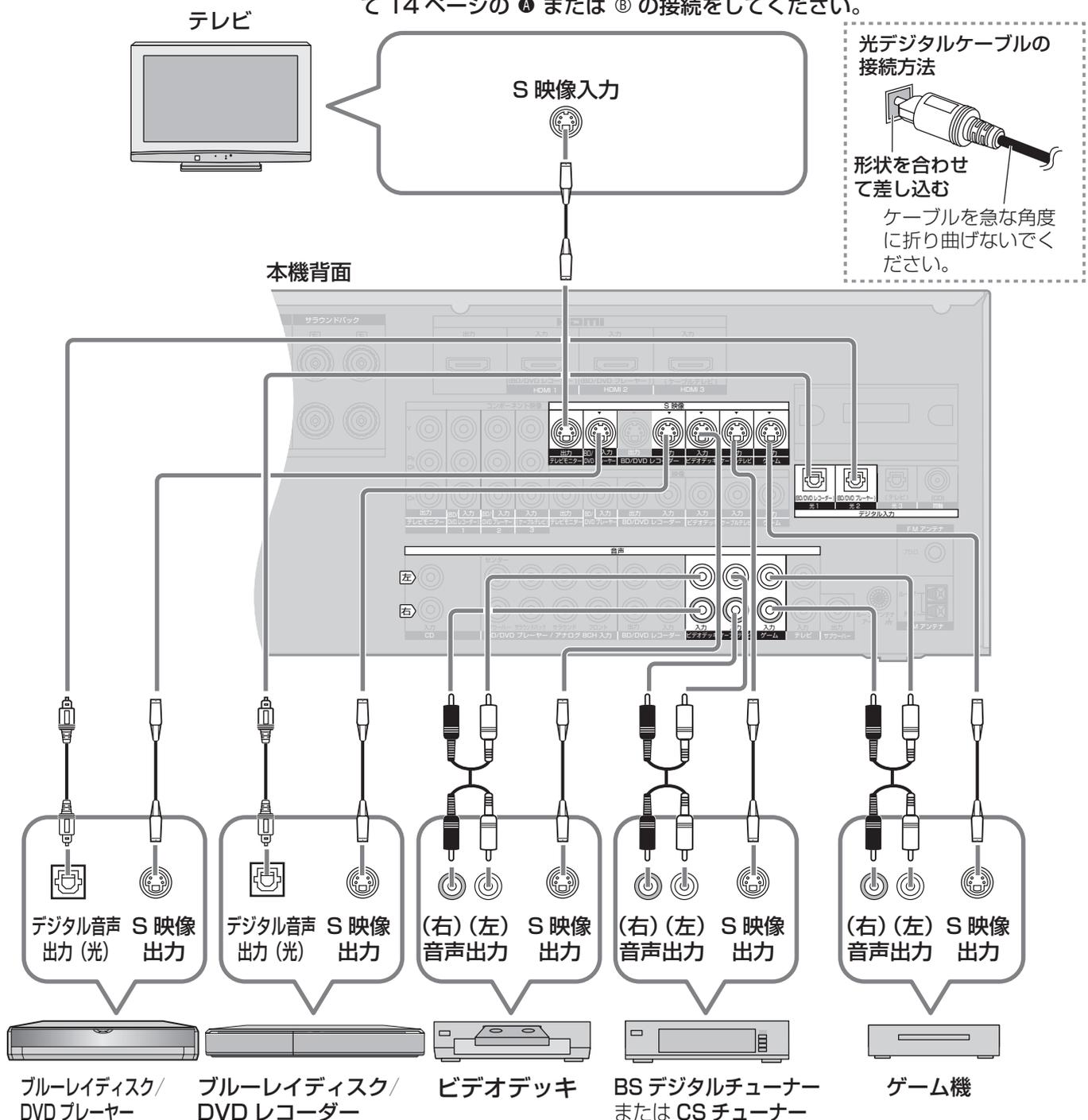
● 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
● 接続する各機器の説明書もご覧ください。
● 本機の上には物を載せないでください。

S映像・音声端子に接続する

使用するケーブル

映像	
S 映像コード（別売）［品番：RP-CVS0G10（1.0 m）など］	
音声	
光デジタルケーブル（別売） ［品番：RP-CA2010（1.0 m）など］ 角形	**ステレオピンコード**（別売） ［品番：RP-CAP3G10（1.0 m）など］ （左）白 （右）赤

別売品の品番は、2008 年 6 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

テレビの音声をサラウンドで聞く場合は、お持ちの機器によって 14 ページの Ⓐ または Ⓑ の接続をしてください。

テレビ

S 映像入力

光デジタルケーブルの接続方法

形状を合わせて差し込む

ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

本機背面

デジタル音声出力（光）　S 映像出力 — ブルーレイディスク/DVD プレーヤー

デジタル音声出力（光）　S 映像出力 — ブルーレイディスク/DVD レコーダー

（右）（左）音声出力　S 映像出力 — ビデオデッキ

（右）（左）音声出力　S 映像出力 — BS デジタルチューナーまたは CS チューナー

（右）（左）音声出力　S 映像出力 — ゲーム機

お知らせ

・入力された映像信号は同じタイプの出力端子からしか出力されません。
・デジタル入力端子の設定は、接続する機器に応じて変更できます。(➔ 37 ページ)

別売品は販売店でお買い求めいただけます。
パナソニックグループのショッピングサイト「パナセンス」でお買い求めいただけるものもあります。
詳しくは「パナセンス」のサイトをご覧ください。

http://www.sense.panasonic.co.jp

D端子（コンポーネント端子）・音声端子に接続する

D 端子（コンポーネント映像端子）は S 映像端子（➔ 16 ページ）よりも忠実に色を再現できます。

使用するケーブル

映像	
D 端子ピンケーブル（別売）［品番：RP-CVCDG15（1.5 m）など］	**コンポーネント映像コード**（別売）［品番：RP-CVPCG10（1.0 m）など］
音声	
光デジタルケーブル（別売）［品番：RP-CA2010（1.0 m）など］ 角形	**ステレオピンコード**（別売）［品番：RP-CAP3G10（1.0 m）など］ （左）白 （右）赤

別売品の品番は、2008 年 6 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

テレビ

D1 ～ D5
映像入力

テレビの音声をサラウンドで聞く場合は、お持ちの機器に合わせて 14 ページの Ⓐ または Ⓑ の接続をしてください。

● コンポーネント端子と接続する場合は、コンポーネント映像コード(別売)を使ってください。

光デジタルケーブルの接続方法

形状を合わせて差し込む

ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

本機背面

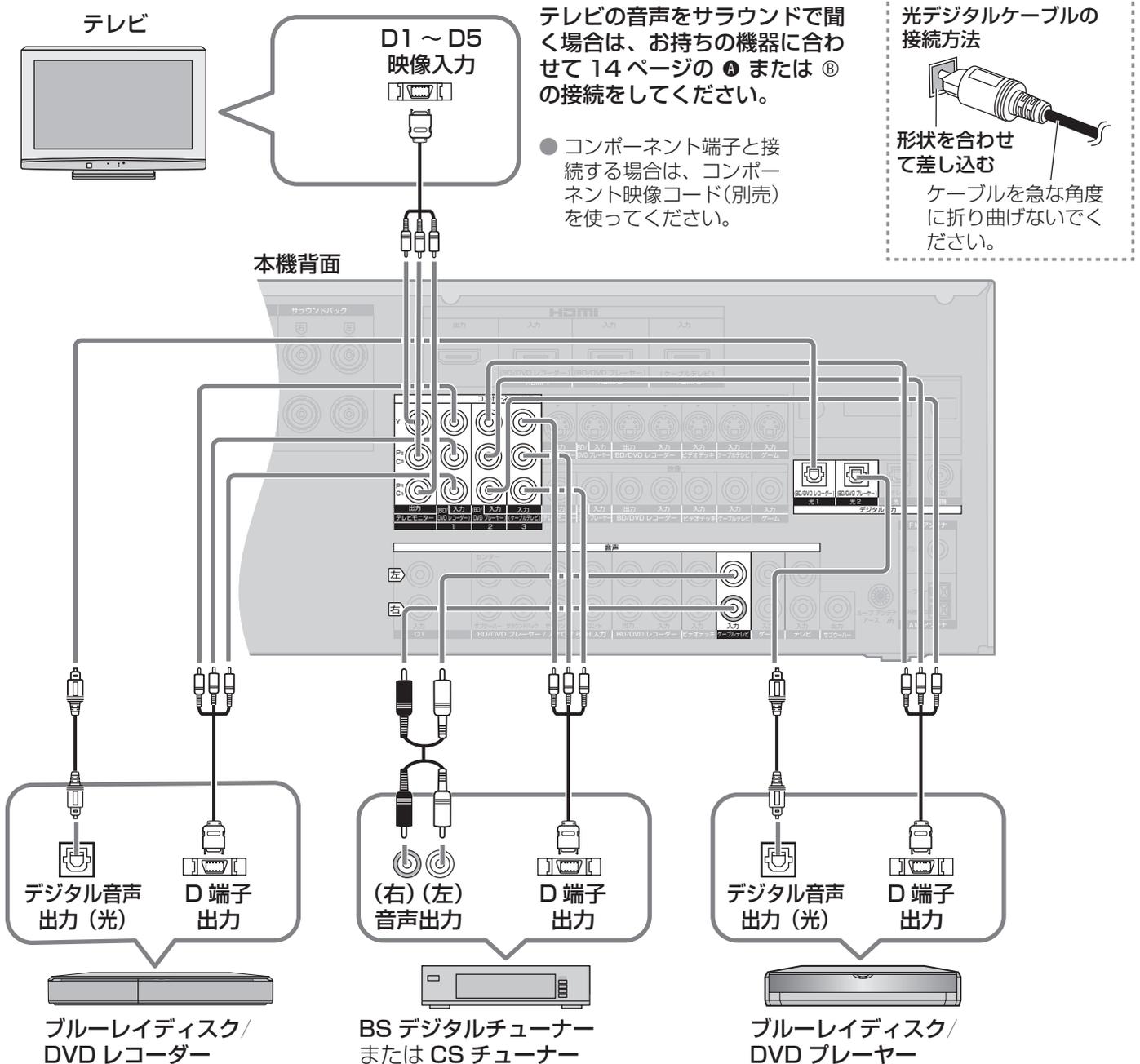
デジタル音声出力（光）　D 端子出力

（右）（左）音声出力　D 端子出力

デジタル音声出力（光）　D 端子出力

ブルーレイディスク/DVD レコーダー

BS デジタルチューナーまたは CS チューナー

ブルーレイディスク/DVD プレーヤー

コンポーネント映像端子について

コンポーネント映像端子（色差映像端子）は、赤（PR/CR）、青（PB/CB）、輝度（Y）信号がそれぞれ独立して出力されるため、色をより忠実に再現します。本機のコンポーネント映像端子は Y、PB、PR または Y、CB、CR のコンポーネント映像に対応しています。

お知らせ

• 入力された映像信号は同じタイプの出力端子からしか出力されません。
• デジタル入力端子と、コンポーネント 3 端子の設定は、接続する機器に応じて変更できます。(➔ 37 ページ)

接続する（つづき）

- 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
- 接続する各機器の説明書もご覧ください。
- 本機の上には物を載せないでください。

その他の接続

使用するケーブル

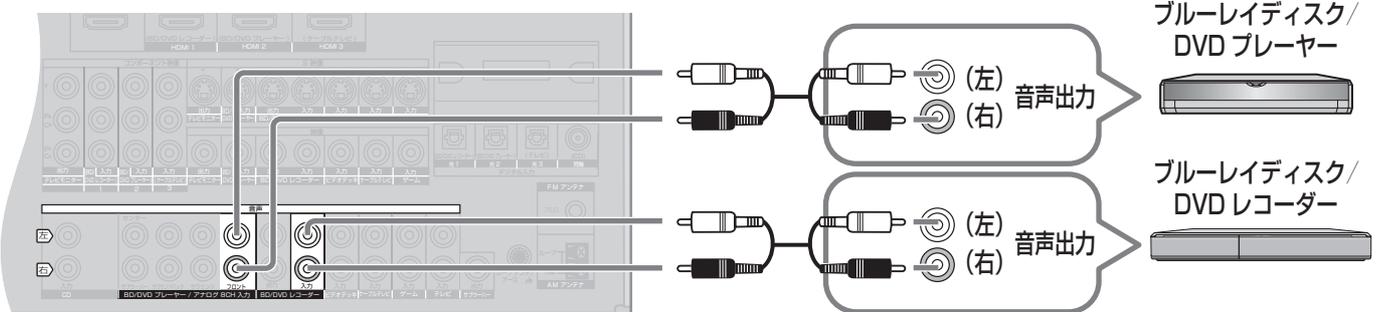
映像	
ビデオコード（別売）[品番：RP-CVP0G10（1.0 m）など]	S 映像コード（別売）[品番：RP-CVS0G10（1.0 m）など]
音声	
同軸デジタルケーブル（市販）	ステレオピンコード（別売）[品番：RP-CAP3G10（1.0 m）など]（左）白（右）赤

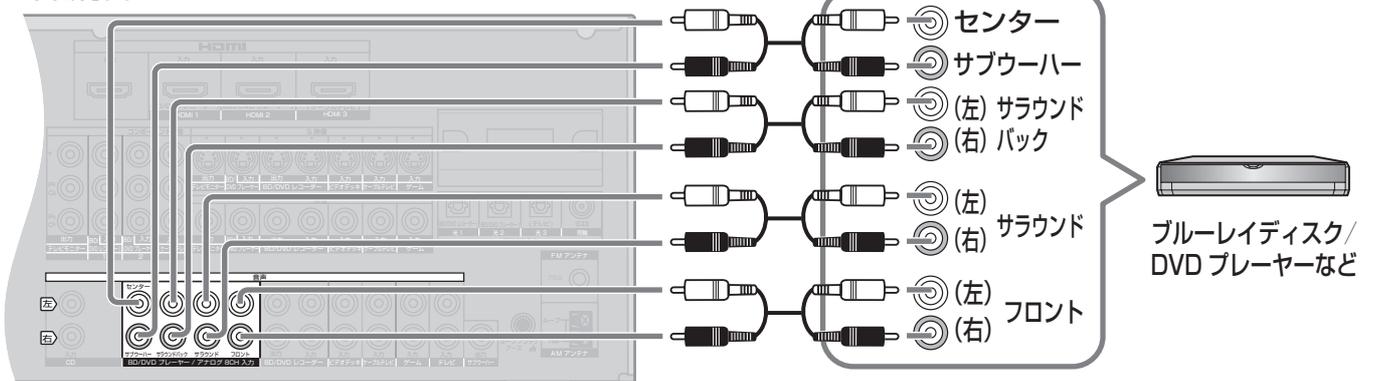
別売品の品番は、2008 年 6 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

アナログ音声を楽しむ

お持ちの機器やお好みに合わせて、アナログ接続をしてください。映像コードの接続については 15 ～ 17 ページをご覧ください。

本機背面

(左)
(右)
音声出力
ブルーレイディスク/DVD プレーヤー
(左)
(右)
音声出力
ブルーレイディスク/DVD レコーダー

高音質なアナログ音声を楽しむ（アナログ 8CH 接続）

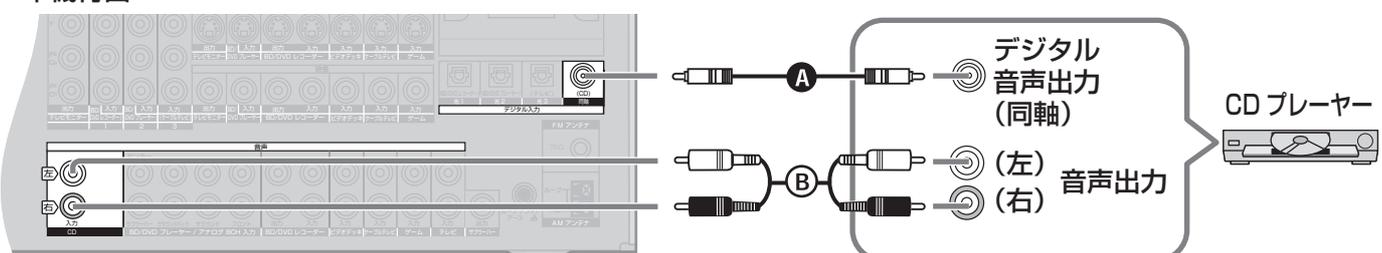
映像コードの接続については 15 ～ 17 ページをご覧ください。

本機背面

お知らせ

- 再生については 25 ページをご覧ください。
- HDMI 接続 (➔ 10、11、14 ページ) をしている場合には、この接続は不要です。

CD プレーヤーを接続する

お持ちの機器やお好みに合わせて、デジタル音声出力 (同軸) (Ⓐ) またはアナログ音声出力 (Ⓑ) のいずれかに接続してください。

本機背面

お知らせ

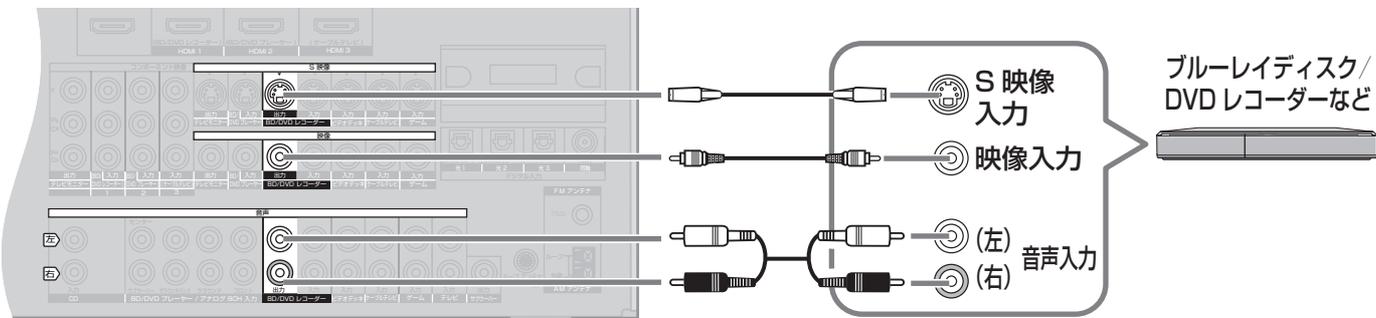
デジタル入力端子の設定は、接続する機器に応じて変更できます。(➔ 37 ページ)

別売品は販売店でお買い求めいただけます。
パナソニックグループのショッピングサイト「パナセンス」でお買い求めいただけるものもあります。
詳しくは「パナセンス」のサイトをご覧ください。

http://www.sense.panasonic.co.jp

録音や録画をする場合の接続

音声や映像を BD/DVD レコーダー出力端子（音声、映像、S 映像）に接続した機器に、録音や録画ができます。
詳しくは 39 ページをご覧ください。

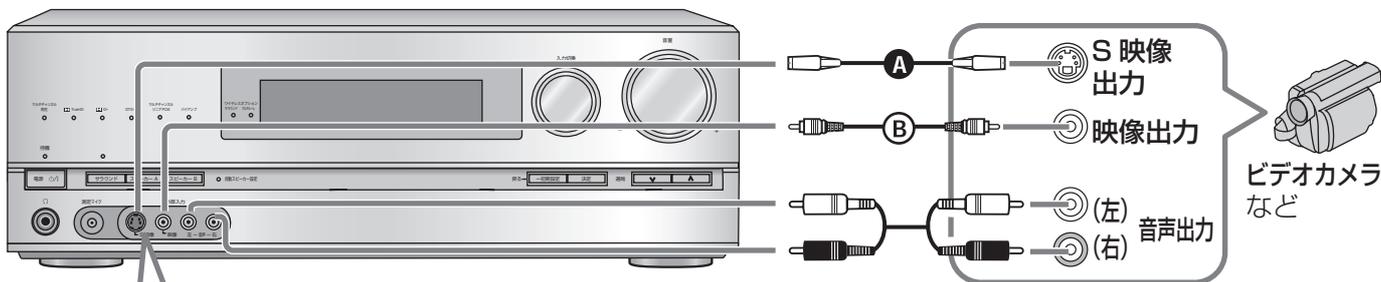
本機背面

お知らせ

録音元の機器は、録音先の機器と同系統のケーブルで接続してください。

ビデオカメラなどを接続する

一時的に接続したい場合に便利です。

お知らせ

• テレビと接続した映像ケーブルと同系統のケーブル（Ⓐ または Ⓑ）を 1 つ選んで接続してください。

フロント端子カバーの付けかたと外しかた

• 端子を保護するために、使用しないときは、カバーを付けることをおすすめします。

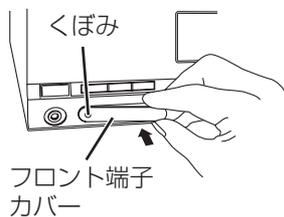
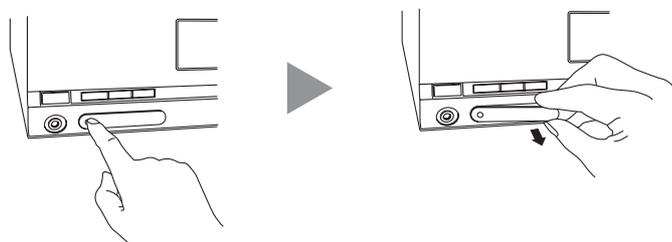
■ 付けかた

くぼみを左側にして挿入する

■ 外しかた

くぼみを押さえる

飛び出た部分を持って外す

準備

接続する（つづき）

接続する（つづき）

- 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
- 接続する各機器の説明書もご覧ください。
- 本機の上には物を載せないでください。

その他のスピーカーの接続

バイワイヤー対応のスピーカーを接続する

フロントスピーカーをバイワイヤー接続した場合、必ず「バイワイヤー接続の設定をする」で“***YES***”に設定（➔ 36 ページ）してください。この設定をしないと、適切に音声が出力されません。

本機背面

HF

右フロント
スピーカー（後面）

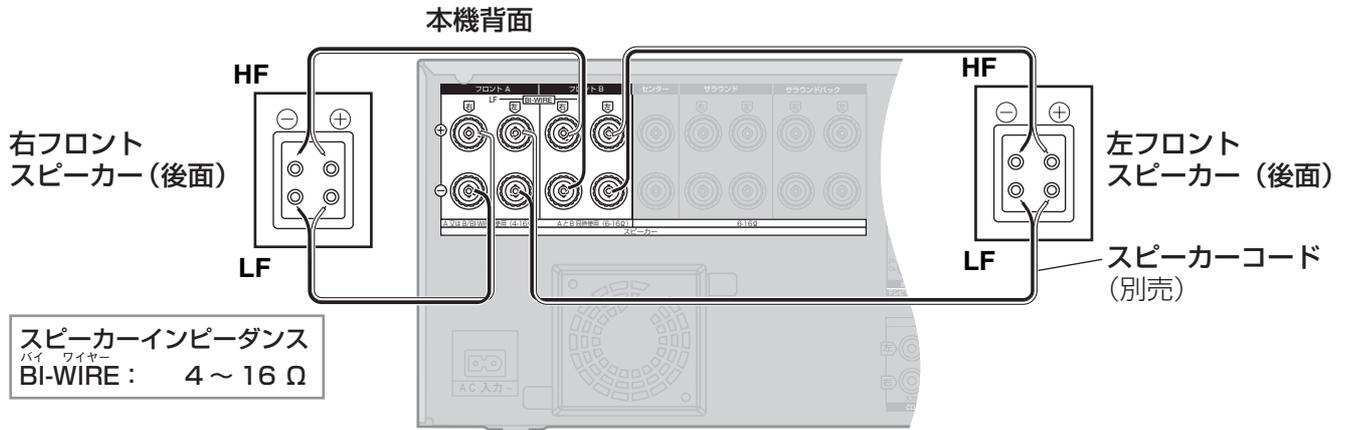
LF

HF

左フロント
スピーカー（後面）

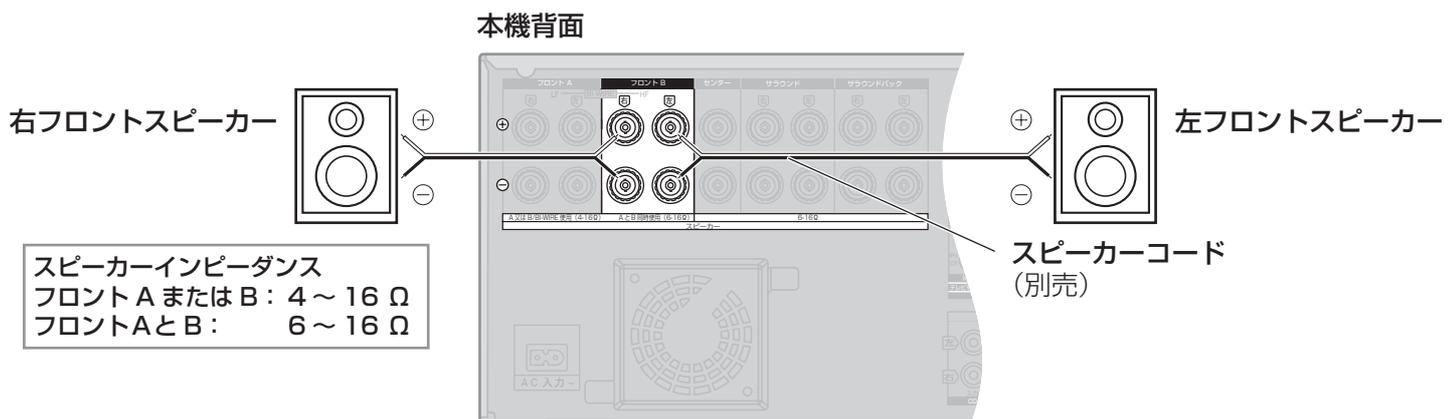
LF

スピーカーコード
（別売）

スピーカーインピーダンス
BI-WIRE（バイ ワイヤー）：　4 ～ 16 Ω

お知らせ

- 必ず HF をフロント B 端子側、LF をフロント A 端子側に接続してください。
- アナログ音声や 2 チャンネルの PCM 信号を 2 チャンネル再生させると、高周波域と低周波域で別々のアンプを使う、より明瞭で高音質なバイアンプステレオサウンドを楽しむことができます。（➔ 47 ページ）
- インピーダンスが 4 Ωのスピーカーを接続する場合には、必ず 36 ページの「スピーカーのインピーダンス設定をする」で“***4 OHMS***”に設定してください。
- 46 ページの「バイワイヤー対応のスピーカーを接続するときのお知らせ」もご覧ください。

2 組目のフロントスピーカー（スピーカー B）を接続する

他の部屋に 2 組目のスピーカーを設置して、音楽を楽しみたいときなどに使用します。

お知らせ

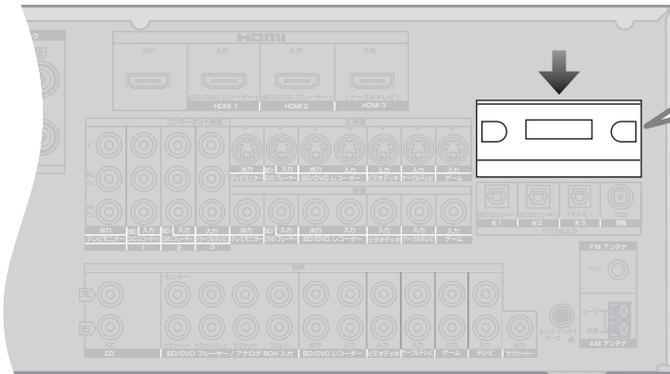
- インピーダンスが 4 Ωのスピーカーを接続する場合には、必ず 36 ページの「スピーカーのインピーダンス設定をする」で“***4 OHMS***”に設定してください。
- 47 ページの「スピーカー B についてのお知らせ」もご覧ください。

別売品は販売店でお買い求めいただけます。
パナソニックグループのショッピングサイト「パナセンス」でお買い求めいただけるものもあります。
詳しくは「パナセンス」のサイトをご覧ください。

http://www.sense.panasonic.co.jp

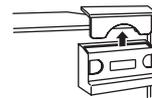
SH-FX70 を使用する

本機では、当社製 SH-FX70（デジタルトランスミッターとワイヤレスシステムのセット：別売）を使用して、左右サラウンドスピーカーをワイヤレスにして楽しめます。(➔ 25 ページ)
本機のデジタルトランスミッター端子にデジタルトランスミッターを差し込み、別売のスピーカーを SH-FX70 ワイヤレスシステムに接続します。詳しくは、SH-FX70 の取扱説明書をご覧ください。

本機背面

デジタルトランスミッターの挿入のしかた

① 左右のくぼみを強く押す

• ふたが飛び出ることがあるので注意してください。

② ふたをはずす

③ ラベル面（ねじが 4 つある面）が手前になるように奥まで挿入する

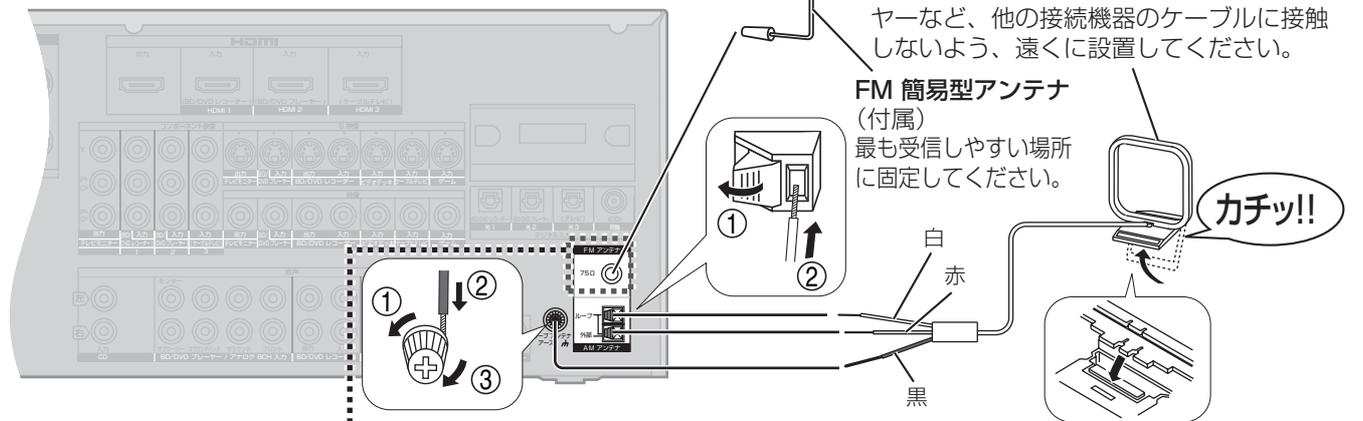
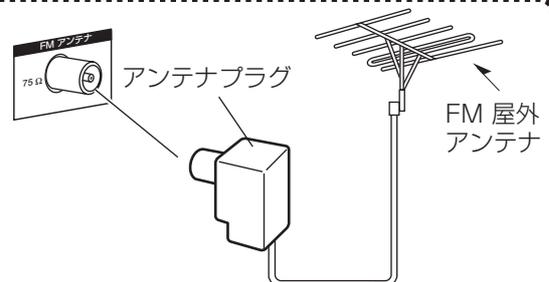
◯◯お知らせ◯◯

[マルチルーム]
• サラウンドスピーカーをワイヤレスにしていない場合は、本機に接続したスピーカーでサラウンド再生をしながら、別の部屋でワイヤレスのスピーカーを使用して音楽を楽しむことができます（マルチルーム）。
• マルチルームで楽しむ場合は「ワイヤレススピーカーの設定をする」で必ず“***MULTI ROOM***”に設定して下さい。(➔ 37 ページ)
• マルチルームで SH-FX70 を使用する場合は、SH-FX70 のサラウンドセレクターを「5.1 チャンネル再生で使用する」設定に切り換えて下さい。
• 詳しくは SH-FX70 の取扱説明書もご覧下さい。

[7.1 チャンネル再生]
• SH-FX70 を２台使用するとサラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーをワイヤレスにして、7.1 チャンネル再生を楽しむこともできます。その場合は、必ず ID 番号を設定して下さい。(➔ 25 ページ)
• 7.1 チャンネル再生にする場合は、SH-FX70 側でサラウンドセレクターの設定が必要です。
• 詳しくは SH-FX70 の取扱説明書もご覧下さい。

ラジオのアンテナを接続する

アンテナを接続したあと、実際に放送を受信して（➔ 44、45 ページ）、雑音の少ない位置に設置してください。

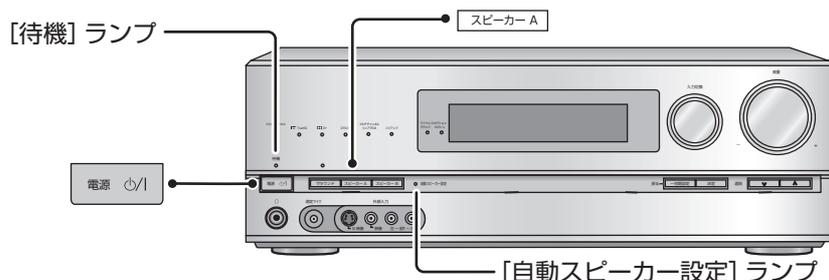
本機背面

FM 屋外アンテナの利用
• 山間部や鉄筋コンクリート建てのビルの中などで、電波を受信しにくい場合は、屋外アンテナを接続してください。
• アンテナ線（同軸ケーブル）をアンテナプラグ（市販）に取り付けて、本機背面に接続します。付属の FM 簡易型 アンテナは外してください。

◯◯お知らせ◯◯

分配器でテレビのアンテナと本機に接続する FM 屋外アンテナを共用すると、テレビ画面の乱れの原因になる場合があります。

測定マイクを使って自動的にスピーカー設定をする

付属の測定マイクを使って視聴位置までの距離、接続したスピーカーの極性やサイズなどを測定し、補正します。
設定中はなるべく音を立てないようにしてください。話し声やエアコンの音、風の音などでエラーや誤った設定となる場合があります。また測定中は大きなテスト音が出ます。小さなお子様は部屋に入らないよう、ご配慮ください。

準備

- テレビは消音してください。
  サブウーハーを接続している場合は、必ず電源が入っていることを確認してください。（サブウーハーによっては自動的に電源が切れている場合があります。）
- サブウーハーの音量は通常使う設定にしてください。
- バイワイヤー接続している場合（➔ 20 ページ）は、必ず先に「バイワイヤー接続の設定をする」で“*YES*”に設定（➔ 36 ページ）してから、自動スピーカー設定を行ってください。

1 本機の電源を入れる

[電源] を押す

- 電源を入れると［待機］ランプが消灯します。
- 本体の［電源 ⏻/I］を押すことでも電源が入ります。

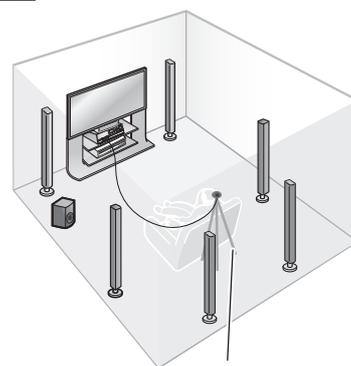
2 本体の表示部に“A”が表示されているか確認する

- “A”が表示されていない場合は、［スピーカー A］を押してください。

3 測定マイク（付属）を端子に接続する

測定マイク

4 測定マイク（付属）を設置する

- 安定させるためにできるだけ平らな面に設置してください。
  例：視聴位置と同じ高さの水平な台やソファの背もたれの上など
- 視聴位置と高さを合わせてください。
- 最良な結果を得るには、カメラなどの三脚を使用してください。

カメラなどの三脚

5 設定を開始する

リモコンの

［ーオート、テスト］を約 2 秒間押したままにする

- ［自動スピーカー設定］ランプが点滅します。
- 設定中に他の操作をすると、設定が中止になります。
- 途中で中止する場合は、［ーオート、テスト］を押してください。

6 設定を終了する

- 終了すると“*COMPLETE*”が表示され、[自動スピーカー設定]ランプが点灯します。
- “*COMPLETE*”表示後に他の操作をすると、通常動作に戻ります。ただし、設定は記憶されます。

リモコンの

［ーオート、テスト］を押す

- 操作を終えたら、測定マイクを取り外してください。

自動スピーカー設定では以下の設定が自動でできます。

距離：　視聴位置から各スピーカーまでの距離を測定し、視聴位置に届く音の遅延時間を補正します。最大 15 m まで補正します。

極性：　各スピーカーの極性を調べ、間違っている場合は補正します。
極性を自動補正したくない場合は「自動スピーカー設定を変更する」の「極性を自動補正しない設定にする」（➔ 36 ページ）で“***CHECK NO***”に設定してから操作を開始してください。

周波数特性補正：　スピーカーの特性（サイズ、スピーカー接続の有無、音量出力レベルや低域フィルターの設定）を含め、部屋の音響特性を測定し、補正します。

お知らせ

- 測定マイクは熱に弱い性質を持っています。直接日光を当てたり、本機の上に置かないようにしてください。
- 電源を切っても、設定は記憶されます。
- 測定マイク端子は、測定マイク専用です。カラオケ用マイクなどを接続しないでください。
- 自動スピーカー設定をくり返し行うと、音量が非常に上がる場合があります。自動スピーカー設定を動作させた後は、音量を確認してから再生してください。
- サブウーハーについては、自動スピーカーにより、スピーカー接続の有無と音量出力レベルの調整のみ補正できます。

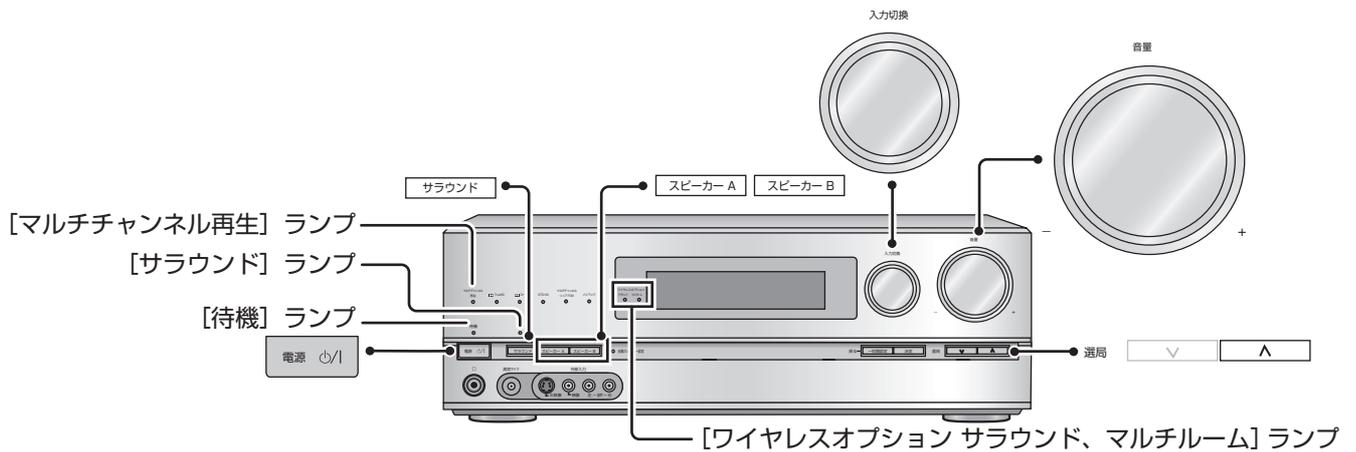
スピーカーの種類や部屋の環境、設置状態により、同じスピーカーを接続していても、スピーカーのサイズや低域フィルターの設定などの判定が一致しない場合や実際のスピーカー単体での特性とは異なる判定を行う場合があります。
スピーカーからの音がおかしく感じられる場合には下記設定内容を確認し、お好みの設定に手動で変更してください。
•「スピーカーの有無とサイズを設定する」、「距離の設定をする」、「低域フィルターの設定をする」（➔ 35、36 ページ）

エラーメッセージが出た場合は…

以下のエラーメッセージが表示された場合は、［−オート、テスト］を押して一度終了し、再度設定をやり直してください。

表示	原因	対策
CONNECT MIC	• 測定マイクが接続されていません。	• 測定マイクを正しく接続してください。
NO MIC	• 測定中にマイクが抜けて正しく測定できません。	• 測定マイクが正しく接続されているか確認してください。
NOISY	• 騒音が大きすぎて測定できません。	• 静かな時間帯に再度行ってください。 • エアコンなど、騒音を発する機器の電源を切ってください。
MEASURING ERROR	• スピーカーまでの距離が遠すぎる。または、原因の特定できないエラーが発生しました。	• スピーカーの設置場所を確認してください。または、再度、測定をやり直してください。
CHECK CONNECTION TO SBL SPEAKER	• 右のサラウンドバックスピーカーは検出できましたが、左のサラウンドバックスピーカーが検出できません。	• サラウンドバックスピーカーを１本のみ接続する場合は、左側のスピーカー端子に接続してください。 • 左側のサラウンドバックスピーカーの接続を確認してください。
NEED TO CONNECT LS/RS SPEAKERS	• サラウンドバックスピーカーが検出されましたが、左右のサラウンドスピーカーが検出できません。	• サラウンドバックスピーカーを接続するときは、サラウンドスピーカーも接続してください。
CHECK CONNECTION TO LS SPEAKER	• サラウンドスピーカー（左）が検出できません。	• 接続を確認してください。
CHECK CONNECTION TO RS SPEAKER	• サラウンドスピーカー（右）が検出できません。	• 接続を確認してください。
CHECK CONNECTION TO L SPEAKER	• フロントスピーカー（左）が検出できません。	• 接続を確認してください。
CHECK CONNECTION TO R SPEAKER	• フロントスピーカー（右）が検出できません。	• 接続を確認してください。
LOW SIGNAL	• スピーカーから出る計測音が小さいため、正しくマイクで測定できません。	• マイクの設置場所を変更してください。（高さや方向など） • スピーカーのまわりに、計測音をさえぎるような障害物がないか確認してください。 • サブウーハーの音量を通常使う設定にしてください。

☞ **設定後、［自動スピーカー設定］ランプが消えている場合**
各種設定の変更などにより、自動スピーカー設定が無効になっています。

再生する

基本の再生

1 本機の電源を入れる
[電源] を押す

- 電源を入れると［待機］ランプが消灯します。
- 本体の［電源 ⏻/I］を押すことでも、電源が入ります。

2 本体の表示部に“A”が表示されているか確認する

- ［サラウンド］ランプが点灯していることを確認してください。
  点灯していない場合は、本体の［サラウンド］を押してサラウンド再生になるように設定してください。（➔ 11、27 ページ）

3 入力を切り換える
[入力切換] を押す

FM → ***AM*** → ***CD*** → ***TV*** → ***CABLE*** → ***BD/DVD P.***（ブルーレイディスク/DVD プレーヤー）
↑ ↓
GAME ← ***AUX*** ← ***VCR*** ← ***BD/DVD R.***（ブルーレイディスク/DVD レコーダー）

- 押すごとに切り換わります。
- 本体の [入力切換] を回すことでも、切り換えできます。

☞ DVD/VHS 専用端子があるビデオデッキ一体型 DVD レコーダーの場合（➔ 15 ページ）

- DVD を楽しむとき：“***BD/DVD R.***”に合わせる
- ビデオを楽しむとき：“***VCR***”に合わせる

4 本機と接続した機器を再生する

5 音量を調整する
[音量 +、−] を押す

音量の範囲：***– – dB***（最小）、***–79 dB*** ～ ***0 dB***（最大）

- 本体の [音量 +、−] でも、音量調整ができます。
- dB 値表示から数値表示に変更できます。（➔ 38 ページ）

■ **再生を楽しんだ後は**
音量を下げてから［電源］を押し、電源を切ってください。

お知らせ

- 本機で再生できるデジタル信号については 46 ページをご覧ください。
- x.v.Color やディープカラー（➔ 48 ページ）で記録された映像にも対応しています。
- 手順 **2** で“A”が表示されていない場合は、［スピーカー A］を押してください。
- バイワイヤー接続（➔ 20 ページ）の場合は、手順 **2** で［スピーカー A］または［スピーカー B］を押して“A”と“B”を点灯させてください。

SH-FX70 でサラウンドスピーカーなどをワイヤレスにする

準備

- 本機のデジタルトランスミッター端子にデジタルトランスミッターを差し込み、別売のスピーカーを SH-FX70 ワイヤレスシステムに接続してください。(➔ 21 ページ)
- SH-FX70 を 2 台使用すると、サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーをワイヤレスにして、7.1 チャンネル再生を楽しむこともできます。
- 詳しくは SH-FX70 の取扱説明書をご覧ください。
- デジタルトランスミッターを抜き差しするときは、必ず本機の電源を切ってください。
- 46 ページのお知らせもご覧ください。

デジタルトランスミッターが挿入されているときは [ワイヤレスオプション サラウンド] ランプが点灯します。
ただし、以下のように点灯せず、消灯または点滅する場合があります。

消灯：

- [マルチチャンネル再生] ランプが消灯しているとき
- マルチルーム（➔ 下記）を使用しているとき

点滅：

- 電波が途切れているとき
  （SH-FX70 の電源が切れているとき）

SH-FX70 を 2 台使用して、7.1 チャンネル再生をする

ID 番号を設定する必要があります。

準備

2 台のうちどちらか一方の SH-FX70 の電源を入れます。
電源を入れていない方に付属しているデジタルトランスミッターを本機に挿入してください。(➔ 21 ページ)

1. **本機の電源を入れる**
   - ［ワイヤレスオプション サラウンド］ランプが点滅します。
2. **リモコンの［FM/AM］を押す**
3. **本体の［選局 ∧］を押したままリモコンの［3］を押す**
   - ID セッティングモードになります。
4. **表示部に“*P*”が表示中に電源を入れている方の SH-FX70 本体の ID セットボタンを押す**
5. **本体の［選局 ∧］を押したままリモコンの［3］を押す**
   - ［ワイヤレスオプション サラウンド］ランプが点灯します。
   - 設定が終了します。

お知らせ

電源を入れた方の SH-FX70 に付属しているデジタルトランスミッターは使用しません。
使用しないデジタルトランスミッターはなくさないように保管しておくことをお奨めします。

ワイヤレスのスピーカーを別の部屋などで使用する（マルチルーム）

- フロントとセンターの音声信号が 2CH MIX（2 チャンネルミックス）されて出力されます。本機を設置している部屋で設定された音量レベル、バランス、音質・音場効果などがマルチルームでも反映されます。
- 「ワイヤレススピーカーの設定をする」で必ず“***MULTI ROOM***”に設定してください。(➔ 37 ページ)
- デジタルトランスミッターが挿入されていて、マルチルームを使用する設定にしているときは［ワイヤレスオプション マルチルーム］ランプが点灯します。ただし、以下のように消灯する場合があります。
  - 電波が途切れているとき（SH-FX70 の電源が切れているとき）
  - サラウンドスピーカーをワイヤレスにしているとき（➔ 左記）

スピーカー B を使う

フロント B 端子に接続したスピーカーから音声を出力します。

本体の［スピーカー B］を押し、“B”を点灯させる

フロント A 端子に接続したスピーカーの音を消したい場合
［スピーカー A］を押して“A”を消してください。

- 47 ページのお知らせもご覧ください。

アナログ 8CH 接続をした場合の再生

準備

- アナログ 8CH 接続をする。(➔ 18 ページ)
- [スピーカー A］を選ぶ。(➔ 24 ページ)
- 入力切換を“***BD/DVD P.***”にする。(➔ 24 ページ)

“*BD P. 8CH*”が表示されるまで、[BD/DVD プレーヤー、－アナログ 8CH] を押したままにする

- 解除するには“***BD/DVD P.***”が表示されるまで、押したままにする。
- 47 ページのお知らせもご覧ください。

テレビのスピーカーだけで楽しむ

- テレビとレコーダーなどの映像機器を本機と HDMI 接続している場合（➔ 10、11、14 ページ）、本機の電源を切っても、レコーダーからの映像 / 音声信号が本機を通過して、テレビへ伝送されます。（スタンバイスルー機能）
  テレビのスピーカーだけで楽しみたいときに便利です。

ビエラリンク (HDMI) を使う場合
本機でマルチチャンネル再生を楽しむ場合には、テレビ（ビエラ）のリモコンでビエラリンクボタンを押し､スピーカー切換を｢音声を AV アンプから出す｣にしてください。
テレビ（ビエラ）の取扱説明書もご覧ください。
(➔ 30 ページの「ビエラリンク（HDMI）でできること」をご覧ください。)

- x.v.Color やディープカラー（➔ 48 ページ）で記録された映像にも対応しています。

7.1 チャンネルバーチャルサラウンド再生を楽しむ

- サラウンドバックスピーカーを接続していない場合でも、6 チャンネル以上の音声信号を再生すると、7.1 チャンネル再生がバーチャルで楽しめます。

お知らせ

サラウンドスピーカーの設置位置を視聴位置の後方にしている場合は、「サラウンドスピーカーの設置位置を設定する」で“***REAR SPK***”に設定してください。(➔ 37 ページ)

テレビやDVDなどをサラウンド音声で聞く

サラウンド効果を加えたり、2 チャンネルのステレオソースをサラウンドで聞くことができます。

ドルビー　プロ　ロジック

Dolby Pro Logic IIx

2 チャンネルのステレオ信号をサラウンドで楽しめます。
ドルビーデジタル、DTS、AACの5.1 チャンネルの信号を7.1 チャンネル（サラウンドバック２本接続時）や6.1 チャンネル（サラウンドバック１本接続時）で楽しむことができます。
ドルビーデジタルサラウンドEX ソースのサラウンドバックチャンネルを有効にします。

[DD PL IIx] を押す

モードは、さらに [DD PL IIx] を押した後、[▲] [▼] を押して切り換えます。

MOVIE ↔ ***MUSIC*** ↔ ***EX*** または ***GAME***

解除する場合は：[サラウンド、切] を押す

ネオ

NEO:6

2 チャンネルのステレオソース信号をサラウンドで楽しめます。
ドルビーデジタル、DTS、AAC の 5.1 チャンネルの信号を 6.1 チャンネルで楽しむことができます。

[NEO:6] を押す

モードは、さらに [NEO:6] を押した後、[▲] [▼] を押して切り換えます。

CINEMA ↔ ***MUSIC***

解除する場合は：[サラウンド、切] を押す

サウンド　フィールド　コントロール

SFC（Sound Field Control）

音声に好みの臨場感や広がり感を与えたサラウンドが楽しめます。

■ MUSIC（ミュージック）
音楽信号で効果があります。

[SFC 音楽] を押す

モードを切り換えるには、さらに [SFC 音楽] を押します。

LIVE → ***POP/ROCK*** → ***VOCAL*** → ***JAZZ*** → ***DANCE*** → ***PARTY***

各モードは、[SFC 音楽] を押してから、[▲] [▼] を押しても、選べます。

解除する場合は：[サラウンド、切] を押す

■ CINEMA（シネマ）
映画ソフトで効果があります。

[SFC 映画] を押す

モードを切り換えるには、さらに [SFC 映画] を押します。

NEWS → ***ACTION*** → ***STADIUM*** → ***MUSICAL*** → ***GAME***

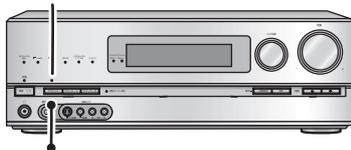
各モードは、[SFC 映画] を押してから、[▲] [▼] を押しても、選べます。

解除する場合は：[サラウンド、切] を押す

お知らせ

- 信号によっては、サラウンド効果が使用できない場合があります。
- 各設定は、電源を切っても記憶されます。
- ドルビープロロジック IIx、NEO:6、SFC を「切」にした場合、信号に記録されたチャンネル数でスピーカーに出力されます。例えば、5.1 チャンネル信号なら、フロント、センター、サラウンド、サブウーハーから出力され、サラウンドバックは無音になります。

☞ 本体で操作する場合

［サラウンド］を押す

［サラウンド］ランプ

- 設定されると［サラウンド］ランプが点灯します。
- 押すごとにサラウンド再生が「入/切」されます。
- 前回選ばれていた音質・音場効果が「入」になります。他の音質・音場効果に変更する場合は、リモコンで操作してください。(➔ 26 ページ)
- 初期設定はドルビープロロジック IIx の“***MOVIE***”モードになります。

お知らせ

- ［サラウンド］の「入／切」は、入力切り換えごとに記憶されます。
- “A”が点灯していないときは使用できません。(➔ 24 ページ)

音場効果についてのお知らせ

■ Dolby Pro Logic IIx

- 入力信号に最適なモードのみが選択可能です。
- “***MUSIC***”では、さらに細かい設定ができます。(➔ 28 ページ)

■ NEO:6

- 入力信号に最適なモードのみが選択可能です。
- 「スピーカーの有無とサイズを設定する」(➔ 35 ページ）で、すべてのスピーカーを“***LARGE***”に設定した場合、2 チャンネルのステレオソースに NEO:6 を使用してもサブウーハーから音声は出力されません。
- “***MUSIC***”では、さらに細かい設定ができます。(➔ 28 ページ)

■ SFC

- SFC は、サラウンドスピーカーを接続していない、または接続していない設定になっている場合、選択できません。
- 入力ソースとモードの組み合わせによっては、音がひずんだように聞こえることがあります。
その場合は、他のモードを選んでください。

Dolby Pro Logic IIx（ドルビー プロ ロジック）	
“***MOVIE***”（ムービー）	特にドルビーサラウンドで記録されたものなど、映画ソフトで効果があります。 サラウンドバックスピーカーを 2 本接続している場合、サラウンドバックはステレオ再生になります。
“***MUSIC***”（ミュージック）	音楽ソース（音源）で効果があります。
“***EX***”（ドルビーデジタル EX）	特にドルビーデジタルサラウンド EX で記録された映画ソフトで効果があります。 サラウンドチャンネルを持っているソースに対してのみ有効です。 サラウンドバックスピーカーを 2 本接続している場合、サラウンドバックはモノラル再生になります。 サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ接続している場合は“DD PL IIx”が消え、“DD DIGITAL EX”または、“DD EX”の表示になります。
“***GAME***”（ゲーム）	迫力のあるサウンドでゲームなどを楽しめます。 2 チャンネルのステレオソースに対してのみ有効です。 ただし、サラウンド、サラウンドバックの各スピーカーが接続されていない（➔ 8、9、22、23 ページ）および「スピーカーの有無とサイズを設定する」で“***NONE***”に設定している（➔ 35 ページ）場合は“***MOVIE***”と同じ効果になります。
NEO:6（ネオ）	
“***CINEMA***”（シネマ）	映画ソフトで効果があります。
“***MUSIC***”（ミュージック）	音楽ソース（音源）で効果があります。
SFC (Sound Field Control)（サウンド フィールド コントロール）	
“***LIVE***”（ライブ）	大きなコンサートホールにいるような音の反響と広がり。
“***POP/ROCK***”（ポップ／ロック）	ポピュラーやロック音楽に適した効果。
“***VOCAL***”（ボーカル）	ボーカルの声を際立たせる効果。
“***JAZZ***”（ジャズ）	ジャズクラブのような狭い部屋での音の反響。
“***DANCE***”（ダンス）	ダンスホールのような広い空間で響いている音の広がり感。
“***PARTY***”（パーティ）	パーティ会場などでかけられている BGM のように、どこにいてもステレオで音楽が聞こえるような効果。
“***NEWS***”（ニュース）	人の声を聞きやすくした効果。
“***ACTION***”（アクション）	迫力のあるアクション映画に適した効果。
“***STADIUM***”（スタジアム）	スポーツ観戦をしているような臨場感。
“***MUSICAL***”（ミュージカル）	ミュージカル劇場にいるような臨場感。
“***GAME***”（ゲーム）	迫力のあるサウンドでゲームなどを楽しむとき。

リモコンで操作する音質・音場効果

各モードについては、26、27 ページを参照してください。

Dolby（ドルビー） Pro（プロ） Logic（ロジック） IIx の“*MUSIC* ”をさらに調整する

入力ソース（音源）が 2 チャンネルのステレオのときに使用できます。

■ Dimension Control/ディメンションコントロール

フロントとサラウンドスピーカーの出力バランスを調整できます。

1. [DD PL IIx] を押してドルビープロロジック IIx を「入」にする
2. [DD PL IIx] を押した後、[▲] [▼] で“*MUSIC* ”を選び、[決定] を押す
3. [▲] [▼] を押して“*DIMEN* ”を選び、[決定] を押す
4. [▲] [▼] を押して調整し、[決定] を押す

   調整範囲：***–3***（サラウンドが強くなる）～ ***+3***（フロントが強くなる）
   初期設定：***0***

■ Center Width Control/センターウイドゥスコントロール

フロントとセンタースピーカーの音を全体的に調整して、より自然な音楽再生ができます。

1. [DD PL IIx] を押してドルビープロロジック IIx を「入」にする
2. [DD PL IIx] を押した後、[▲] [▼] で“*MUSIC* ”を選び、[決定] を押す
3. [▲] [▼] を押して“*C-WIDTH* ”を選び、[決定] を押す
4. [▲] [▼] を押して調整し、[決定] を押す

   調整範囲：***0***（センターがはっきりする）～ ***7***（センターが広がる）
   初期設定：***3***

NEO（ネオ）:6 の“*MUSIC* ”をさらに調整する

入力ソース（音源）が 2 チャンネルのステレオのときに使用できます。

■ Center Image Control/ センターイメージコントロール

フロントとセンタースピーカーの音を全体的に調整して、より自然な音楽再生ができます。

1. [NEO:6] を押して NEO:6 を「入」にする
2. [NEO:6] を押した後、[▲] [▼] で“*MUSIC* ”を選び、[決定] を押す
3. [▲] [▼] を押して“*C-IMAGE* ”を選び、[決定] を押す
4. [▲] [▼] を押して調整し、[決定] を押す

   調整範囲：***0***（センターがはっきりする）～ ***5***（センターが広がる）
   初期設定：***2***

便利な機能

スピーカーの音量調整をする

視聴位置で、フロントスピーカーの音と各スピーカーの音がバランスよく聞こえるように、スピーカーの出力レベルを調整します。

準備

- 本体の [スピーカー A] を押し、"A" を点灯させる。
- バイワイヤー接続の場合は、[スピーカー A] または [スピーカー B] を押し、"A" と "B" を点灯させる。
（スピーカー B のみ選択されているときは、テスト信号が出力されません。）

1. [入力切換] で機器が接続されていない入力を選ぶ
- または、接続機器の再生を止めてください。

2. [音量 +、−] で− 30 dB から− 35 dB 程度の音量にする

3. [−オート、テスト] を押す
- 下記の順に表示されます。

L → ***C*** → ***R*** → ***RS*** → ***SBR*** → ***SBL*** → ***LS*** → ***SUBW*** または、

L → ***C*** → ***R*** → ***RS*** → ***SB*** → ***LS*** → ***SUBW***（サラウンドバックスピーカー 1 本接続時）

- 接続設定しているスピーカーからテスト信号が出力されます。

スピーカー表示

L：フロント（左） ***C***：センター ***R***：フロント（右） ***RS***：サラウンド（右）
SBR：サラウンドバック（右） ***SBL***：サラウンドバック（左）
SB:サラウンドバック（1 本接続時） ***LS***:サラウンド（左） ***SUBW***:サブウーハー

4. 調整したいスピーカーからテスト信号が出力されているときに [▲] [▼] を押して、スピーカーの音量を調整する
- [▶] を押すと、テスト信号の出力を次のスピーカーに移動させることができます。

調整範囲：***–20 dB*** 〜 ***+10 dB***（初期設定：***0 dB***）
SUBW のみ：***MIN***（最小）、***1*** 〜 ***29*** 、***MAX***（最大）（初期設定：***20***）

5. [−オート、テスト] を押して終了する

6. [音量 +、−] で通常聞く音量にする

お知らせ

- フロントスピーカーはこの操作では調整できません。フロントスピーカーの音量調整は［音量 +、−］でします。
- 左右フロントスピーカーの音量バランス調整は、「音量バランスの調整をする」(➔ 33 ページ)を参照してください。

一時的に音を消す

[消音] を押す

- 消音中は "***MUTING***" が点滅表示されます。
- もう一度押すと、解除されます。
- 電源を切ったり、音量操作をしたりすると消音は解除されます。

情報を表示させる

[表示] を押す

- 現在の状態（音量、SFC の設定、デジタル入力（端子名/フォーマット））が順にスクロールされます。
- 二重音声を受信しているときは、受信状態が表示されます。(➔ 33 ページ)
- メモリーした放送局を受信しているときは、チャンネル番号が表示されます。(➔ 44 ページ)

ビエラリンク（HDMI）を使う

ビエラリンク（HDMI）（HDAVI Control™）とは

- 本機と HDMI ケーブル（別売品）を使って接続したビエラリンク対応機器を自動的に連動させて、リモコン 1 つで簡単に操作できる機能です。各機器の詳しい操作については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
  ※すべての操作ができるものではありません。
- ビエラリンク（HDMI）は、HDMI CEC（Consumer Electronics Control）と呼ばれる業界標準の HDMI によるコントロール機能をベースに、当社独自機能を追加したものです。他社製 HDMI CEC 対応機器との動作保証はしておりません。
- ビエラリンク（HDMI）に対応した他社製品については、その製品の取扱説明書をご確認ください。
- 本機はビエラリンク（HDMI）Ver.3 に対応しています。
  ビエラリンク（HDMI）Ver.3 とは、従来の当社製ビエラリンク（HDMI）機器にも対応した当社基準です。
  （2007 年 12 月現在）

ビエラリンク（HDMI）でできること

ビエラリンク（HDMI）を正しく動作させるために

本機の電源ボタン（リモコン含む）で電源を入れずに、テレビ（ビエラ）のリモコンで「音声を AV アンプから出す」を選択してください。（本機の電源が自動的に入ります。）
- テレビ（ビエラ）のリモコンで操作します。
- テレビ（ビエラ）の取扱説明書もご覧ください。

1. **スピーカー切換ができます（「音声を AV アンプから出す」または「音声をテレビから出す」）。**
   「音声を AV アンプから出す」：本機がスタンバイ状態のとき、自動的に電源が入り、本機に接続されたスピーカーから音声が出力される設定になります。
   「音声をテレビから出す」：テレビ（ビエラ）のスピーカーから音声が出力される設定になります。

   - テレビによって、操作は異なります。

2. **テレビ（ビエラ）のリモコンで、テレビ（ビエラ）の電源を切ると自動的に本機の電源も切れます。**
   （この機能は本機の入力が“***FM***”、“***AM***”または“***CD***”になっているときは働きません。）
   ビエラリンク（HDMI）に対応したレコーダー（ディーガ）と HDMI ケーブルで接続している場合は、レコーダー（ディーガ）の電源も切れます。

3. **サウンドを切り換えることができます。**
   （ビエラリンク（HDMI）Ver.2/ ビエラリンク（HDMI）Ver.3 対応の当社製テレビ (ビエラ）との組み合わせのみ）

   - テレビによって、操作は異なります。
   - モード切り換え時、本機の表示部にサウンドモード名が表示されます。

   さらに、番組情報などに応じて、自動的にサウンドを切り換えることができます（オートサウンド連携）
   （ビエラリンク（HDMI）Ver.3 の当社製テレビ（ビエラ）とレコーダー（ディーガ）の組み合わせのみ）
   - テレビによって、操作は異なります。
   - 自動で設定をしない場合は、“オート”以外のサウンドを選んでください。
   - 番組情報などを受け取り、サウンドが変更された場合は、本機の表示部にサウンドモード名が表示されます。
   - すべての番組情報などには対応していません。対応していない場合には、スタンダードモード（ドルビープロロジック IIx）になります。

   以下のような場合に働きます。

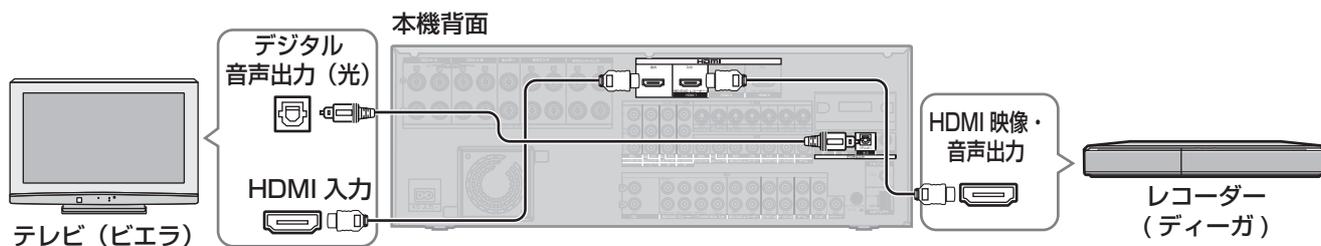
   ■テレビ（ビエラ）やケーブルテレビで：デジタル放送の番組を視聴中
   ■レコーダー（ディーガ）で：
   　デジタル放送の番組を視聴中、または再生中
   　DVD、CD、SD などを再生中
   　• 録画したディスクによっては、対応していない場合があります。
   　• 自動的にサウンドを切り換えるかどうかの設定ができます。
   　• 詳しくは、レコーダー（ディーガ）の取扱説明書をご覧ください。

お知らせ
- テレビ（ビエラ）のリモコンで、チャンネル選択などの操作を行うと、本機の入力が“***TV***”に切り換わります。
- HDMI1（BD/DVD レコーダー）端子に接続したレコーダー（ディーガ）を再生すると、本機の入力が自動で“***BD/DVD R.***”に切り換わります。
- 上記以外の操作をする場合は、本機のリモコンを使用してください。
- 上記手順 1 でスピーカー切換を「音声をテレビから出す」にしている場合は、本機からは 2 チャンネルの音声のみ出力されます。
  本機でマルチチャンネル再生を楽しむ場合には、テレビ（ビエラ）のリモコンでビエラリンクボタンを押し、スピーカー切換を「音声を AV アンプから出す」にしてください。
  テレビ（ビエラ）の取扱説明書もご覧ください。

接続

本機とビエラリンク（HDMI）に対応した当社製テレビ（ビエラ）とレコーダー（ディーガ）をHDMIケーブルで接続します。

お知らせ

- 当社製 HDMI ケーブルを推奨します。
- HDMI ロゴ（➔ 表紙）のある「High Speed HDMI ™ ケーブル」をお買い求めください。
- 1080p 出力時は、5.0 m 以下の HDMI ケーブルをおすすめします。
  品番 : RP-CDHG10 (1.0 m)、RP-CDHG15 (1.5 m)、RP-CDHG20 (2.0 m)、RP-CDHG30 (3.0 m) など
- HDMI 規格に準拠していないケーブルでは動作しません。
- HDMI ケーブルの接続だけでは、本機でテレビの音声を楽しむことができません。本機でテレビの音声を楽しむ場合は、本機とテレビを光デジタルケーブルで接続してください。
- 本機は、ディープカラーをサポートしています。

設定

準備：本機の「ビエラリンク（HDMI）を使わない設定にする」（➔ 38 ページ）で“*ON*”になっているかを確認してください。
テレビ（ビエラ）のメニュー操作でビエラリンク（HDMI）機能を働かせる設定にしてください。
テレビ（ビエラ）の音声をサラウンドで楽しむときは、テレビ（ビエラ）のデジタル音声出力を“自動”に設定してください。

1. **テレビ（ビエラ）以外のすべての機器の電源を入れる。**
2. **テレビ（ビエラ）の電源を入れる。**
3. **テレビ（ビエラ）の入力を、本機を接続した HDMI 端子に切り換える。**
4. **本機の入力を“*BD/DVD R.*”に切り換えて、レコーダー（ディーガ）の画像が正しく映るかを確認する。**

お知らせ

この設定は以下のような場合に行ってください。
- お買い上げの直後、初めて本機を接続したとき
- 機器を追加、または接続し直したとき
- 各設定を変更したとき

ホームシアターをワンタッチ操作で楽しむ

リモコンをレコーダー（ディーガ）に向けて［ワンタッチ再生］を押す

ボタンを押すだけで、以下の動作が自動で始まります。
1. レコーダー（ディーガ）の電源が「入」になり、選択されているドライブ（HDD/DVD など）から再生が始まります。
2. テレビの電源が「入」になり、テレビの入力が切り換わります。
3. 本機の電源が「入」になり、入力ソースが“***BD/DVD R.***”に切り換わった後、本機に接続されたスピーカーより音声が出力されます。

☞ 音量を調整する場合［音量 +、−］を押す。

再生中は、テレビ（ビエラ）のリモコンでも音量調整ができます。
（音量を調整すると、テレビ画面に本機の音量を調整中であることが表示されます。）

この機能を使わない設定にする

「ビエラリンク（HDMI）を使わない設定にする」（➔ 38 ページ）で“***OFF***”を選んでください。

サウンドメニューを使う

◯◯(お知らせ)◯◯
サウンドメニュー設定中に [▲][▼][◀][▶]、[決定]、[戻る] 以外のボタンを押すと、サウンドメニューの操作が終了します。

■ サウンドメニュー項目
サウンドメニューには、下記の項目があり、それぞれ設定できます。
設定については、各項目をご覧ください。

"CH LEVEL" (➔ 下記) ↔ *"BASS"* (➔ 下記) ↔ *"TREBLE"* (➔ 33 ページ) ↔ *"BALANCE"* (➔ 33 ページ)
"DUAL" (➔ 33 ページ) ↔ *"DRCOMP"* (➔ 33 ページ) ↔ *"W. S."* (➔ 33 ページ) ↔ *"EXIT"*

スピーカーのレベルを調整する

センター、サラウンド、サラウンドバック、サブウーハー、各スピーカーのレベルを調整します。

1. [サウンドメニュー] を押す
2. [▲][▼] を押して "*CH LEVEL* " を選び、[決定] を押す
3. [▲][▼] を押して調整したいスピーカーを選び、[決定] を押す
   スピーカー表示
   C：センター　***LS***：サラウンド（左）　***RS***：サラウンド（右）
   SBL：サラウンドバック（左）***SBR***：サラウンドバック（右）
   SB：サラウンドバック（1 本接続時）
   SUBW：サブウーハー
4. [▲][▼] を押してレベルを調整し、[決定] を押す
   調整範囲：***C***、***LS***、***RS***、***SBL***、***SBR***、***SB***（1 本接続時）；***–20*** dB 〜 ***+10*** dB
   SUBW；– – –、***MIN***（最小）、***1*** 〜 ***29***、***MAX***（最大）
   初期設定：***C***、***LS***、***RS***、***SBL***、***SBR***、***SB***（1 本接続時）；***0*** dB
   SUBW；***20***
5. [サウンドメニュー] を押して "*EXIT* " を選び、[決定] を押して設定を終了する

設定動作中、ひとつ前に戻る/キャンセルする：[戻る] を押す

◯◯(お知らせ)◯◯
• サブウーハーの調整で "– – –" を選ぶとサブウーハーから音が出ません。
• サブウーハーレベルが高い状態で本機の音量を上げると、サブウーハーから出力される音がひずんで聞こえることがあります。この場合はサブウーハーレベルを下げてください。
• [マルチチャンネル再生] ランプが消灯しているときは、サブウーハー以外のスピーカーは調整できません。

低域の調整をする

BASS（バス）（低域）を調整できます。

1. [サウンドメニュー] を押す
2. [▲][▼] を押して "*BASS* " を選び、[決定] を押す
3. [▲][▼] を押して調整し、[決定] を押す
   調整範囲：***–10*** dB 〜 ***+10*** dB
   初期設定：***0*** dB
4. [サウンドメニュー] を押して "*EXIT* " を選び、[決定] を押して設定を終了する

設定動作中、ひとつ前に戻る/キャンセルする：[戻る] を押す

高域の調整をする

TREBLE（高域）を調整できます。

1. [サウンドメニュー] を押す

2. [▲] [▼] を押して“*TREBLE*”を選び、[決定] を押す

3. [▲] [▼] を押して調整し、[決定] を押す

調整範囲：***–10*** dB 〜 ***+10*** dB
初期設定：***0*** dB

4. [サウンドメニュー] を押して“*EXIT*”を選び、[決定] を押して設定を終了する

設定動作中、ひとつ前に戻る/キャンセルする：[戻る] を押す

音量バランスの調整をする

左右フロントスピーカーの出力バランスを調整できます。

1. [サウンドメニュー] を押す

2. [▲] [▼] を押して“*BALANCE*”を選び、[決定] を押す

3. [◀] [▶] を押して調整し、[決定] を押す

スピーカー表示
L：左フロント　***R***：右フロント

- 表示部のバーを左右に動かすことで調整できます。
- “***L***”に近づくにつれて、左フロントに音が寄ります。
- “***R***”に近づくにつれて、右フロントに音が寄ります。

4. [サウンドメニュー] を押して“*EXIT*”を選び、[決定] を押して設定を終了する

設定動作中、ひとつ前に戻る/キャンセルする：[戻る] を押す

◯◯お知らせ◯◯

- バーの表示は目安です。
- スピーカー A、B とも「切」の場合は、調整できません。

二重音声を切り換える

二重音声のソースを再生するときに音声モードを選択することができます。
二重音声信号の受信状態は「情報を表示させる」（➔ 29 ページ）で確認できます。

1. [サウンドメニュー] を押す

2. [▲] [▼] を押して“*DUAL*”を選び、[決定] を押す

3. [▲] [▼] を押して音声を選び、[決定] を押す

MAIN：　主音声
SUB：　副音声
M+S：　主＋副音声
初期設定：***MAIN***

4. [サウンドメニュー] を押して“*EXIT*”を選び、[決定] を押して設定を終了する

設定動作中、ひとつ前に戻る／キャンセルする：[戻る] を押す

小音量でも聞きやすくする

ドルビーデジタルに対するダイナミックレンジ圧縮機能です。音声信号の最大音と最小音の差を圧縮し、音場に影響することなく小音量でもセリフを聞きやすくします。深夜など大きな音を出せない場合に便利です。

1. [サウンドメニュー] を押す

2. [▲] [▼] を押して“*DRCOMP*”を選び、[決定] を押す

3. [▲] [▼] を押してモードを選び、[決定] を押す

OFF：通常の再生
STANDARD：音源に合わせた最適な再生
MAX：常に最大圧縮
初期設定：***OFF***

4. [サウンドメニュー] を押して“*EXIT*”を選び、[決定] を押して設定を終了する

設定動作中、ひとつ前に戻る／キャンセルする：[戻る] を押す

◯◯お知らせ◯◯

送られてくる信号の情報に基づき動作するため、効果がない場合があります。

ウィスパーモードサラウンドを使用する

サラウンド再生時のみ効果がある機能です。
サラウンド再生時に小音量にしても臨場感のある効果が楽しめます。

1. [サウンドメニュー] を押す

2. [▲] [▼] を押して“*W. S.*”を選び、[決定] を押す

3. [▲] [▼] を押して“*ON*”を選び、[決定] を押す

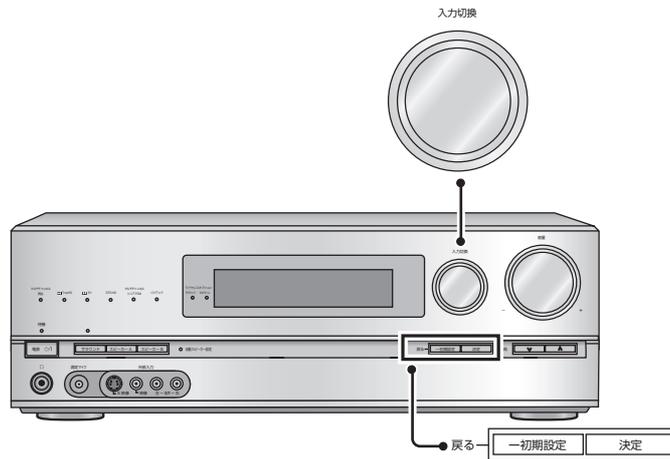
OFF：ウイスパーモードサラウンドを使用しない
ON：ウイスパーモードサラウンドを使用する
初期設定：***OFF***

4. [サウンドメニュー] を押して“*EXIT*”を選び、[決定] を押して設定を終了する

設定動作中、ひとつ前に戻る／キャンセルする：[戻る] を押す

◯◯お知らせ◯◯

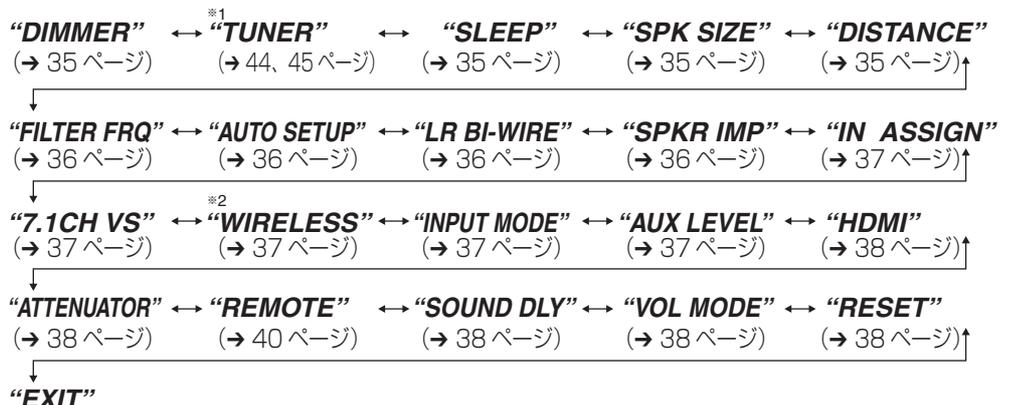
- 2 チャンネルソース入力でドルビープロロジック IIx、NEO:6、SFC を「切」にしている場合、効果は使用できません。
- スピーカー A を「切」にしている場合は、効果は使用できません。

アンプの設定をする

基本操作

各項目を設定する共通操作です。

	リモコンで操作する	本体で操作する
「初期設定」に入る	[ー初期設定] を約２秒間押したままにする	[戻る、ー初期設定] を約２秒間押したままにする
項目を選ぶ / 設定を選ぶ 項目については、下記をご覧ください。	[▲][▼] を押して項目や設定を選び、[決定] を押す	[入力切換] を回して項目や設定を選び、[決定] を押す
設定を終える	[戻る] を数回押して "*EXIT*" を選び、[決定] を押して設定を終了する • 設定をする前の表示に戻ります。 • "*EXIT*" は初期設定項目を選択中に [▲][▼] を押すことでも選べます。	[戻る、ー初期設定] を数回押して "*EXIT*" を選び、[決定] を押して設定を終了する • 設定をする前の表示に戻ります。 • "*EXIT*" は初期設定項目を選択中に [入力切換] を回すことでも選べます。
動作中にひとつ前に戻る/キャンセルする	[戻る] を押す	[戻る、ー初期設定] を押す

○○お知らせ○○
設定中に [▲][▼]、[決定]、[戻る] 以外のボタンを押すと、初期設定の操作が終了します。

■ 初期設定項目
初期設定には下記の項目があり、それぞれ設定できます。
設定については、各項目をご覧ください。

※１ "***TUNER***" は入力切換を "***FM***" または "***AM***" にしているときのみ表示されます。(➔ 44、45 ページ)
※２ "***WIRELESS***" はデジタルトランスミッターが挿入されているときのみ表示されます。(➔ 21 ページ)

表示部の明るさを調整する

部屋を暗くして、映画を見るときなどに便利です。

1.「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）

2. [▲][▼] を押して“*DIMMER*”を選び、[決定] を押す

3. [▲][▼] を押して設定を選び、[決定] を押す
   調整範囲：***DIMMER 1***（明）～ ***DIMMER 3***（暗）
   初期設定：***DIMMER OFF***

4. 設定を終える（➔ 34 ページ）

◯◯お知らせ◯◯

- 解除するには“***DIMMER OFF***”を選んでください。
- 設定を変更した時点で、明るさは変わります。ただし、確定するために [決定] を押してください。

おやすみタイマーを使用する

設定した時間が経過すると自動的に電源が切れます。就寝時などに便利です。

1.「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）

2. [▲][▼] を押して“*SLEEP*”を選び、[決定] を押す

3. [▲][▼] を押して設定を選び、[決定] を押す
   調整範囲：***OFF***、***30***、***60***、***90***、***120***（分）
   初期設定：***OFF***

4. 設定を終える（➔ 34 ページ）

◯◯お知らせ◯◯

- 解除するには“***OFF***”を選んでください。
- 設定すると表示部に“**SLEEP**”と表示されます。
- 一度設定すると、手順 **2** で残り時間が表示されます。
- 設定をやり直すには、手順 **3** でもう一度時間を設定してください。

スピーカーの有無とサイズを設定する

接続しているスピーカーの有無とサイズの設定を手動で設定できます。スピーカーにより再生できる周波数帯域は異なります。特に低域を不足することなく再生させるためにサイズの設定を行います。

1.「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）

2. [▲][▼] を押して“*SPK SIZE*”を選び、[決定] を押す

3. [▲][▼] を押して設定するスピーカーを選び、[決定] を押す
   SUBW：サブウーハー　***LR***：フロントスピーカー
   C：センタースピーカー　***S***：サラウンドスピーカー
   SB：サラウンドバックスピーカー

4. [▲][▼] を押して設定を変更し、[決定] を押す
   SUBW（サブウーハー）
   　NO：接続していない　***YES***：接続している
   LR（フロント）、***C***（センター）、***S***（サラウンド）
   　NONE（センター、サラウンドのみ）：接続していない
   　SMALL：SMALL（スモール）のスピーカーを接続している
   　LARGE：LARGE（ラージ）のスピーカーを接続している
   SB　（サラウンドバック）
   　NONE：接続していない
   　1-SPK：1 本接続している　***2-SPK***：2 本接続している

   初期設定：
   LR（フロント）、***C***（センター）、***S***（サラウンド）：***SMALL***
   SUBW（サブウーハー）：***YES***、***SB***（サラウンドバック）：***2-SPK***

5. 設定を終える（➔ 34 ページ）

◯◯お知らせ◯◯

- “***SMALL***”に設定した場合、再生できる周波数に応じて、低域フィルターの周波数を設定してください。（購入時は 80 Hz に設定されています。）（➔ 36 ページ）
- 47 ページのお知らせもご覧ください。

距離の設定をする

フロント／センター／サラウンド／サラウンドバックスピーカーから視聴位置までの距離を設定することで、視聴位置に届く音の遅延時間を自動的に算出し、補正します。

1.「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）

2. [▲][▼] を押して“*DISTANCE*”を選び、[決定] を押す

3. [▲][▼] を押して設定するスピーカーを選び、[決定] を押す
   L：フロント（左）　***R***：フロント（右）　***C***：センター
   LS：サラウンド（左）　***RS***：サラウンド（右）
   SBL：サラウンドバック（左）
   SBR：サラウンドバック（右）

4. [▲][▼] を押して距離を選び、[決定] を押す
   設定値：***0.5*** ～ ***15.0 m***（0.1 m 単位で切り換えられます。）
   初期設定：
   L, ***R***（フロント左、右）　***3.0 m***
   C（センター）　***3.0 m***
   LS, ***RS***（サラウンド左、右）　***1.5 m***
   SBL, ***SBR***（サラウンドバック左、右）　***1.5 m***

5. 設定を終える（➔ 34 ページ）

◯◯お知らせ◯◯

- 自動スピーカー設定（➔ 22、23 ページ）で、極性を自動補正したスピーカーには“***L 3.0 –***”のように“–”が表示されます。
- 自動スピーカー設定（➔ 22、23 ページ）で距離の測定値が 15 m を超えた場合、距離の部分が“***OVER***”と表示されます。

アンプの設定をする（つづき）

低域フィルターの設定をする

スピーカーのサイズ（➔ 35 ページ）が“*SMALL*”の場合に設定が必要です。スピーカーが“*SMALL*”の場合は低域を十分に再生することができません。再生できる周波数に応じて低域フィルターの周波数を設定し、不足している低域をサブウーハーに出力させます。

1. 「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）
2. [▲][▼] を押して“*FILTER FRQ*”を選び、[決定] を押す
3. [▲][▼] を押して低域フィルターの周波数を選び、[決定] を押す

   設定した Hz 以下の低域をサブウーハーに出力させます：
   40、***60***、***80***、***100***、***120***、***150***、***200*** (Hz)
   初期設定：***80*** (Hz)

4. 設定を終える（➔ 34 ページ）

お知らせ
“*SMALL*”にしたすべてのスピーカーに設定されます。

自動スピーカー設定を変更する

購入時の状態に戻す

付属の測定マイクで設定した状態を購入時の状態に戻します。（この操作で、[自動スピーカー設定] ランプは消灯します。）

1. 「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）
2. [▲][▼] を押して“*AUTO SETUP*”を選び、[決定] を押す
3. [▲][▼] を押して“*DEFAULT*”を選び、[決定] を押す
4. [▲][▼] を押して“*YES*”を選び、[決定] を押す

   YES：購入時の状態に戻す
   NO：購入時の状態に戻さない
   初期設定：***NO***
   • 中止するには“***NO***”を選ぶ

5. 設定を終える（➔ 34 ページ）

極性を自動補正しない設定にする

正しく接続していても極性が逆と判定されるスピーカーがあります。その場合は、極性を自動補正しない設定にして、極性を反転させないようにします。

1. 「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）
2. [▲][▼] を押して“*AUTO SETUP*”を選び、[決定] を押す
3. [▲][▼] を押して“*POLARITY*”を選び、[決定] を押す
4. [▲][▼] を押して“*CHECK NO*”を選び、[決定] を押す

   CHECK YES：通常の自動スピーカー設定をする
   CHECK NO：極性を自動補正しない設定にする
   初期設定：***CHECK YES***

5. 設定を終える（➔ 34 ページ）

設定された周波数特性の高域を補正する

設定された周波数特性のうち、高域の音質をお好みに合わせて補正することができます。

1. 「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）
2. [▲][▼] を押して“*AUTO SETUP*”を選び、[決定] を押す
3. [▲][▼] を押して“*EQ ADJUST*”を選び、[決定] を押す
4. [▲][▼] を押して設定を選び、[決定] を押す

   OFF：設定された周波数特性を使用しない
   SOFT：高域をゆるやかに補正
   NORMAL：高域を標準的に補正
   HARD：高域を強く補正

   初期設定：***NORMAL***

5. 設定を終える（➔ 34 ページ）

バイワイヤー接続の設定をする

フロントスピーカーをバイワイヤー接続した場合、必ずこの設定で“***YES***”を選んでください。
この設定をしないと、適切に音声が出力されません。

1. 「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）
2. [▲][▼] を押して“*LR BI-WIRE*”を選び、[決定] を押す
3. [▲][▼] を押して“*YES*”を選び、[決定] を押す

   YES：バイワイヤースピーカーを使用する
   NO：バイワイヤースピーカーを使用しない

   初期設定：***NO***

4. 設定を終える（➔ 34 ページ）

スピーカーのインピーダンス設定をする

スピーカーが低負荷インピーダンス時（4 Ω）に設定します。

1. 「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）
2. [▲][▼] を押して“*SPKR IMP*”を選び、[決定] を押す
3. [▲][▼] を押して“*4 OHMS*”を選び、[決定] を押す

   6 OHMS：スピーカーのインピーダンスが通常の場合
   4 OHMS：スピーカーが低負荷インピーダンス（4 Ω）の場合

   初期設定：***6 OHMS***

4. 設定を終える（➔ 34 ページ）

お知らせ
接続しているスピーカーにインピーダンスが 4 Ωのものが 1 本でもある場合、“***4 OHMS***”に設定してください。

入力端子の割り当てを変更する

ひとつの入力を複数の同じ種類の端子に割り当てることはできません。その場合は、後から設定した方が有効になります。

1.「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）
2. [▲][▼] を押して"*IN ASSIGN*"を選び、[決定] を押す
3. [▲][▼] を押して入力端子の種類を選び、[決定] を押す

HDMI3（HDMI 3 入力）、***OPT1***（光 1 入力）、***OPT2***（光 2 入力）、***OPT3***（光 3 入力）、***COAX***（同軸入力）、***CMPV3***（コンポーネント 3 映像入力）

HDMI 1、2 と CMPV1、2 はあらかじめ入力端子の割り当てが固定されており、変更はできません。

4. [▲][▼] を押して割り当てる入力を選び、[決定] を押す

割り当てることができる入力：
HDMI3：***CBL***（ケーブルテレビ）、***GAME***（ゲーム）
OPT1、***OPT2***、***OPT3***、***COAX***：
DVR（ブルーレイディスク/DVD レコーダー）、
BD P（ブルーレイディスク/DVD プレーヤー）、
CBL、***GAME***、***CD***、***TV***
CMPV3：***CBL***, ***GAME***, ***VCR***（ビデオデッキ）
初期設定：
HDMI3；***CBL***、***OPT1***；***DVR***、***OPT2***；***BD P***、
OPT3；***TV***、***COAX***；***CD***、***CMPV3***；***CBL***

手順 3 と 4 を繰り返し、設定を変更

5. 設定を終える（➔ 34 ページ）

サラウンドスピーカーの設置位置を設定する

7.1 チャンネルバーチャルサラウンド再生のときに、サラウンドスピーカーの位置を設定します。

1.「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）
2. [▲][▼] を押して"*7.1CH VS*"を選び、[決定] を押す
3. [▲][▼] を押して設定を選び、[決定] を押す

OFF：7.1 チャンネルサラウンド再生効果を使用しないとき
SIDE SPK：サラウンドスピーカーを視聴位置のほぼ横に設置しているとき
REAR SPK：サラウンドスピーカーを視聴位置の後方に設置しているとき
初期設定：***SIDE SPK***

4. 設定を終える（➔ 34 ページ）

ワイヤレススピーカーの設定をする

当社製 SH-FX70（別売）にスピーカーを接続する場合、ワイヤレスサラウンドスピーカーとして使用するか、マルチルームスピーカーとして使用するかを選びます。

1.「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）
2. [▲][▼] を押して"*WIRELESS*"を選び、[決定] を押す
3. [▲][▼] を押して設定を選び、[決定] を押す

MULTI ROOM：マルチルームスピーカーとして使用するとき
SURR SPKR：ワイヤレスサラウンドスピーカーとして使用するとき
初期設定：***SURR SPKR***

4. 設定を終える（➔ 34 ページ）

お知らせ

詳しくは 25 ページをご覧ください。

入力信号の判別方法を切り換える

"*AUTO*"（購入時の設定）でほとんどの場合問題なく再生できますが、以下のような場合には、入力信号の判別方法を切り換えてください。

- CD を再生して、曲の始まりが途切れる場合は、"*PCM*"（PCM FIX）に設定してください。
- アナログやデジタルに固定することもできます。

1.「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）
2. [▲][▼] を押して"*INPUT MODE*"を選び、[決定] を押す
3. [▲][▼] を押して設定を変更したいデジタル入力端子を選び、[決定] を押す

TV、***CBL***（ケーブルテレビ）、***DVR***（ブルーレイディスク/DVD レコーダー）、***BD P***（ブルーレイディスク /DVD プレーヤー）、***CD***, ***GAME***

4. [▲][▼] を押して入力信号の判別方法を選び、[決定] を押す

AUTO：デジタル、アナログの自動判別（デジタルの場合、HDMI が優先されます）
ANLG：アナログに固定
DIG：デジタルに固定
PCM：PCM（音楽 CD など）のデジタルに固定
初期設定：***AUTO***

手順 3 と 4 を繰り返し、設定を変更

5. 設定を終える（➔ 34 ページ）

お知らせ

- "*CBL*"、"*GAME*"、"*TV*"と"*CD*"は、デジタル入力端子（HDMI、光、同軸）に割り当てられていない場合（➔ 左記）、"*AUTO*"と"*ANLG*"のみ選択できます。
- デジタルに固定した場合、常に表示部に"**デジタル入力**"の表示が出ます。
- PCM FIX に設定すると、常に表示部に"**PCM**"の表示が出ます。
- PCM FIX 設定時にデジタル接続（光、同軸）で PCM 以外のソースが入力された場合は、表示部に"*PCM FIX*"が点滅します。

外部入力端子に接続した機器の音量を大きくする

外部入力端子に接続した機器の音量が小さく感じられるときに設定します。

1.「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）
2. [▲][▼] を押して"*AUX LEVEL*"を選び、[決定] を押す
3. [▲][▼] を押して"*LEVEL HIGH*"を選び、[決定] を押す

LEVEL LOW：通常時の音量設定
LEVEL HIGH：音量を大きくしたい場合の設定

初期設定：***LEVEL LOW***

4. 設定を終える（➔ 34 ページ）

お知らせ

"*LEVEL HIGH*"に設定した場合に、音がひずむ場合は"*LEVEL LOW*"にしてください。

アンプの設定をする（つづき）

本機の電源「切」時の消費電力を下げる（省待機電力モード）

1. 「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）
2. [▲] [▼] を押して“*HDMI*”を選び、[決定] を押す
3. [▲] [▼] を押して“*STNBY*”を選び、[決定] を押す
4. [▲] [▼] を押して“*OFF*”を選び、[決定] を押す
   OFF：電源「切」時の消費電力を下げる場合
   ON：スタンバイスルー（➔ 11 ページ）を働かせる場合（電源「切」時の消費電力は約 0.6 W になります。）

◯◯（お知らせ）◯◯
“***OFF***”に設定した場合、以下のようになります。
- 電源「切」時の消費電力が約 0.3 W になります。
- HDMI 接続しているときは、スタンバイスルー動作ができなくなります。
- 電源「切」時のビエラリンク（HDMI）（➔ 30、31 ページ）は無効になります。

初期設定：***ON***

5. 設定を終える（➔ 34 ページ）

ビエラリンク (HDMI) を使わない設定にする

1. 「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）
2. [▲] [▼] を押して“*HDMI*”を選び、[決定] を押す
3. [▲] [▼] を押して“*CTRL*”を選び、[決定] を押す
4. [▲] [▼] を押して“*OFF*”を選び、[決定] を押す
   OFF：機能を使わないとき
   ON：機能を使うとき

初期設定：***ON***

5. 設定を終える（➔ 34 ページ）

アッテネーターを切り換える

アナログ信号入力で再生中、音がひずんだように聞こえる場合は“***ON***（入）”にしてください。

1. 「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）
2. [▲] [▼] を押して“*ATTENUATOR*”を選び、[決定] を押す
3. [▲] [▼] を押して“*ON*”を選び、[決定] を押す
   OFF：切
   ON：入

初期設定：***OFF***

4. 設定を終える（➔ 34 ページ）

音声を遅らせて映像とのズレを補正する

1. 「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）
2. [▲] [▼] を押して“*SOUND DLY*”を選び、[決定] を押す
3. [▲] [▼] を押して設定を選び、[決定] を押す

AUTO、***OFF***、***10***、***20***、***30***、***40***、***60***、***80***、***100***、***120***、***140***、***160***、***180***、***200***（msec）

◯◯（お知らせ）◯◯
- “***AUTO***”はビエラリンク（HDMI）Ver.3 に対応の当社製テレビ（ビエラ）を接続している場合のみ有効です。（➔ 30、31 ページ）
- ビエラリンク（HDMI）Ver.3 に対応していない当社製テレビ（ビエラ）、もしくは当社製以外のテレビを接続している場合で“***AUTO***”にしているときは、“***40***”(msec) として設定されます。

初期設定：***AUTO***

4. 設定を終える（➔ 34 ページ）

音量値の表示を数値に変更する

音量の表示を dB 表示から数値表示に変更できます。

1. 「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）
2. [▲] [▼] を押して“*VOL MODE*”を選び、[決定] を押す
3. [▲] [▼] を押して表示を選び、[決定] を押す
   数値表示：***0*** から ***50*** の表示で音量値を表示するモード（初期値：***16***）
   dB 表示：dB 表示で音量値を表示するモード（初期値：***–48 dB***）

初期設定：dB 表示

4. 設定を終える（➔ 34 ページ）

◯◯（お知らせ）◯◯
- 音量値の表示を変更すると、音量が初期値に戻ります。

購入時の状態（初期設定）に戻す（RESET（リセット）機能）

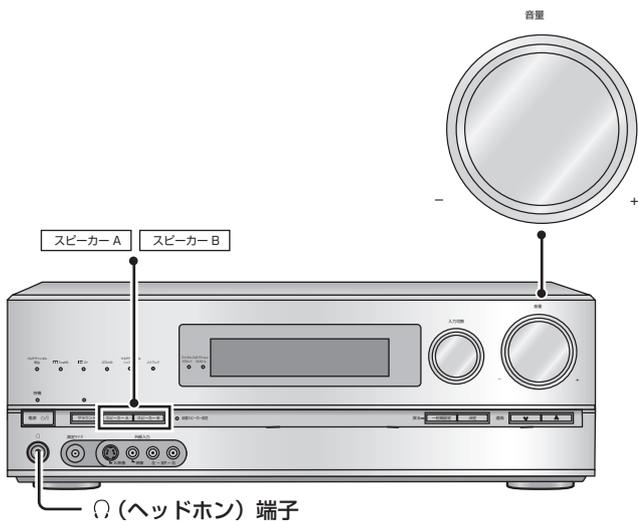
すべての設定を購入時の初期設定に戻します。
必要に応じて再度設定を行ってください。

1. 「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）
2. [▲] [▼] を押して“*RESET*”を選び、[決定] を押す
3. [▲] [▼] を押して“*YES*”を選び、[決定] を押す
   YES：リセットする
   NO：リセットしない
   - 中止するには“***NO***”を選ぶ

初期設定：***NO***

◯◯（お知らせ）◯◯
- リセットすると、入力は“***FM***”（プリセットチャンネル 1）に切り換わります。

4. 設定を終える（➔ 34 ページ）

ヘッドホンを使う

1. [スピーカー A]、[スピーカー B] を押して
すべてのスピーカーを「切」にする

2. [音量 ＋、－] で音量を下げ、ヘッドホンを接続する
プラグタイプ：φ 6.3 mm ステレオ標準プラグ

3. [音量 ＋、－] で音量を調整する

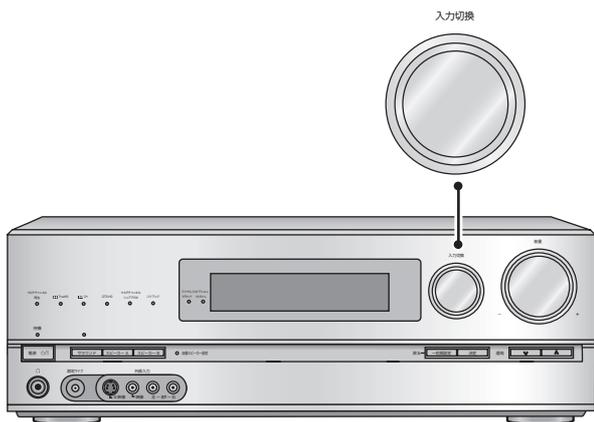
お知らせ

- 耳を刺激するような大きな音で、長時間聞くことは避けてください。
- すべてのスピーカーを「切」にすることで 2 チャンネルのみの再生になり、サラウンドソース（音源）は、強制的に 2CH MIX (2 チャンネルミックス) になります。（DVD オーディオのダウンミックス禁止ソースを除く。）
- アナログ 8CH 接続 (➔ 18 ページ) で再生しているときは、アナログ 8CH（➔ 25 ページ) は解除されて、8 チャンネル入力のうちフロント 2 チャンネルの音声が出力されます。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

音のエチケット
シンボルマーク

録音・録画

本機の BD/DVD レコーダー出力端子に接続した ブルーレイディスク/DVD レコーダーなどに録音・録画できます。(➔ 19 ページ)
録音、録画、再生機器の説明書もご覧ください。

1. [入力切換] を押して、
録音・録画するソース（音源）を選ぶ
・本体の［入力切換］を回すことでも選択できます。

2. 録音先の機器で録音・録画を始める

3. 録音元の機器で録音・録画するソース（音源）の再生を始める

お知らせ

- BD/DVD レコーダー入力端子の映像や音声は、BD/DVD レコーダー出力端子から出力されません。
- ブルーレイディスク/DVD レコーダー、ブルーレイディスク/DVD プレーヤー、テレビ、ビデオデッキ、ケーブルテレビ、CD プレーヤーやゲームから録音する場合、アナログ入力端子に接続し、
入力信号の判別方法を“***ANLG***”に設定してください。(➔ 37 ページ)
- アナログ 8CH 入力を選んだ場合は、フロント 2 チャンネルの音声しか録音できません。
- 操作中は本機の電源を切らないでください。

リモコンでテレビやDVDレコーダーなどを操作する

本機の他、**当社製**のテレビ、ケーブルテレビ、ブルーレイディスク /DVD レコーダー、ブルーレイディスク /DVD プレーヤーを本機のリモコンで操作できます。（ただし操作のできない機種もあります。）各操作についての詳細は、それぞれの機器の説明書をご覧ください。

操作する機器に向けて

テレビを操作する

テレビ テレビ操作の前に必ず行ってください。	**本機の入力を“*TV*”に切り換える/リモコンをテレビ操作モードに切り換える**
AV機器 電源	**テレビの電源を入/切する**
入力切換	**テレビのテレビ/ビデオ入力を切り換える**
テレビ ＋ 音量 －	**テレビの音量を調整する**
アナログ-地上-デジタル ◀◀ ▶▶	**地上アナログ放送、地上デジタル放送に切り換える**
BS ドライブ切換	**BS 放送に切り換える**
CS1/2 CATV 再生 ▶	**CS 放送に切り換える** • 押すごとに、CS1 と CS2 が切り換わります。
∧ チャンネル ∨	**チャンネルを選ぶ** • 順に選ぶとき
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10/0 11 ≧10 12	**チャンネルを選ぶ** • 直接選ぶとき

ケーブルテレビを操作する

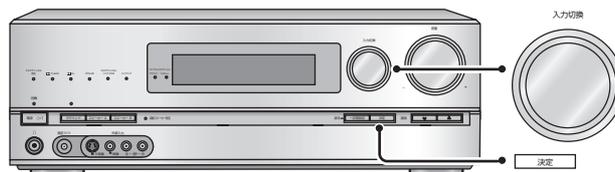
ケーブルテレビ ケーブルテレビ操作の前に必ず行ってください。	**本機の入力を“*CABLE*”に切り換える / リモコンをケーブルテレビ操作モードに切り換える**
AV機器 電源	**ケーブルテレビの電源を入/切する**
地上-デジタル ▶▶	**地上デジタル放送に切り換える**
BS ドライブ切換	**BS 放送に切り換える**
CS1/2 CATV 再生 ▶	**ケーブルテレビ放送に切り換える**
∧ チャンネル ∨	**チャンネルを選ぶ** • 順に選ぶとき
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10/0 11 ≧10 12	**チャンネルを選ぶ** • 直接選ぶとき

◯◯お知らせ◯◯

チャンネルを選ぶ場合は、［地上 - デジタル ▶▶］、［BS、ドライブ切換］、［CS1/2 CATV、再生 ▶］を先に押して、放送形式を選んでください。

テレビのチャンネルが操作できない場合

• 地上アナログ放送のみ対応のテレビの場合、他の放送切り換えボタンを押すと、テレビのチャンネルが操作できなくなります。
再度、［アナログ - 地上 ◀◀］を押して、地上アナログ放送に切り換えてください。

2 つ以上の当社製機器（ミニコンや AV アンプなど）をお使いの場合

2 つ以上の当社製オーディオ機器を使う場合、本機のリモコンを使用すると複数の機器が動作することがあります。
その場合は、本機のリモコンモードを“*REMOTE 2*”に切り換えてください。
この操作で、本体とリモコンのモードを同じ番号に設定します。

（本体側操作）

1.「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）
2. [入力切換] を回して“*REMOTE*”を選び、[決定] を押す
3. [入力切換] を回して“*1*”または“*2*”を選び、[決定] を押す
 1（初期設定）: 本体側のリモコンモードを 1 にする
 2: 本体側のリモコンモードを 2 にする
4. 設定を終える（➔ 34 ページ）

（リモコン側操作）

5. [FM/AM] を押す
6. [決定] と [1] または [2] を同時に約 2 秒間押したままにする
 [1]（初期設定）: リモコン側のリモコンモードを 1 にする
 [2]: リモコン側のリモコンモードを 2 にする
 • 手順 3 で選んだモード番号と同じ番号を選んでください。

ブルーレイディスク/DVD レコーダーを操作する

操作する機器に向けて

☞ **本機のリモコンで当社製のブルーレイディスク/DVD レコーダーを操作する場合**
ブルーレイディスク/DVD レコーダーと本機のリモコンのリモコンモードを一致させてください。

準備
ブルーレイディスク/DVD レコーダーの取扱説明書に従って、ブルーレイディスク/DVD レコーダーのリモコンモード番号を確認する。

1. [BD/DVD レコーダー] を押す
2. [決定] を押したまま、[1]、[2] または [3] を約 2 秒間押したままにする

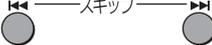
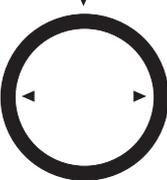
• 押した数字ボタンに応じて、「モード 1」、「モード 2」または「モード 3」がリモコン側に設定されます。
• 初期設定は、「モード 1」です。

☞ **ブルーレイディスク/DVD レコーダーのドライブが切り換わらない場合**
ブルーレイディスク /DVD レコーダー側が、本機のリモコンの出す信号を認識していない可能性があります。
下記の操作で信号を変更して、もう一度切り換えてみてください。

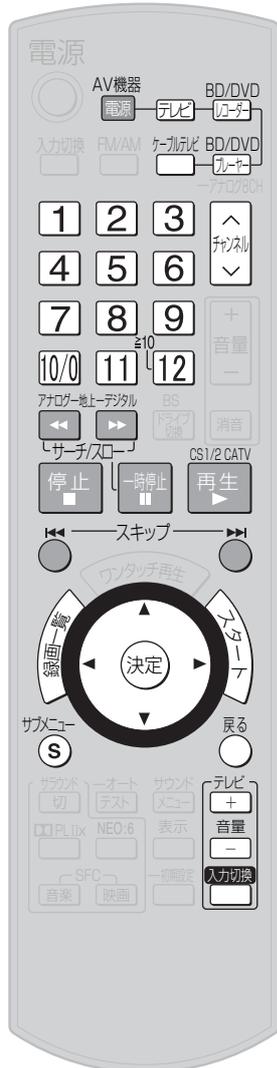
1. [BD/DVD レコーダー] を押す
2. [決定] を押したまま、[8] を約 2 秒間押したままにする

元に戻す場合は：
上記手順 **2** の操作で、[決定] を押したまま、[9] を約 2 秒間押したままにする

お知らせ
ビデオデッキ一体型 DVD レコーダーを操作する場合は、[ドライブ切換] で、VHS以外を選択してください。

ボタン	操作
BD/DVD レコーダー ブルーレイディスク/DVD レコーダー操作の前に必ず行ってください。	**本機の入力を“*BD/DVD R.*”に切り換える/リモコンをブルーレイディスク/DVD レコーダー操作モードに切り換える**
AV機器 電源	**ブルーレイディスク/DVD レコーダーの電源を入/切する**
再生 ▶	**再生を始める**
⏮ スキップ ⏭	**トラックやチャプターを飛び越す（スキップ）**
◀◀ ▶▶ サーチ/スロー	**見たい場所を探す（サーチ）**
一時停止 ❚❚ ▼ ◀◀ ▶▶ サーチ/スロー	**スロー再生**
録画一覧 スタート	**ブルーレイディスク/DVD レコーダーの機能を呼び出す** • 機種によっては、「トップメニュー」、「再生ナビ」、「機能選択」、「操作一覧」の機能が動作する場合があります。
サブメニュー S	**サブメニューを表示する**
戻る	**前の画面に戻る**
▲▼◀▶	**項目を選ぶ** • [録画一覧]、[S、サブメニュー] や [スタート] を押した後に操作してください。
決定	**選んだ項目を実行する**
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10/0 11 ≧10 12	**トラックやチャプターを直接選ぶ** • 数字ボタンを押した後、[決定] を押して実行する機種もあります。 **チャンネルを選ぶ** • 直接選ぶとき
一時停止 ❚❚	**一時停止する**
一時停止 ❚❚ ▼ ◀ ▶	**コマ戻し/コマ送りする**
ドライブ切換	**ブルーレイディスク/DVD レコーダーのドライブ（ハードディスク、ディスク、SD など）を切り換える**
∧ チャンネル ∨	**チャンネルを選ぶ** • 順に選ぶとき
停止 ■	**再生を停止する**

リモコンでテレビやDVDレコーダーなどを操作する（つづき）

ブルーレイディスク/DVD プレーヤーを操作する

操作する機器に向けて

ボタン	操作
BD/DVD プレーヤー ブルーレイディスク / DVD プレーヤー操作の前に必ず行ってください。	本機の入力を“*BD/DVD P.*”に切り換える/リモコンをブルーレイディスク/DVD プレーヤー操作モードに切り換える
AV機器 電源	ブルーレイディスク/DVD プレーヤーの電源を入/切する
再生 ▶	再生を始める
⏮ スキップ ⏭	トラックやチャプターを飛び越す（スキップ）
◀◀ ▶▶ サーチ/スロー	見たい場所を探す（サーチ）
一時停止 ❚❚ ▼ ◀◀ ▶▶ サーチ/スロー	スロー再生
録画一覧 スタート	ブルーレイディスク/DVD プレーヤーの機能を呼び出す • 機種によっては、「トップメニュー」、「再生ナビ」、「機能選択」、「操作一覧」「画面表示（DISPLAY）」機能が動作する場合があります。
サブメニュー S	サブメニューを表示する
戻る	前の画面に戻る
▲ ▼ ◀ ▶	項目を選ぶ • ［録画一覧］、［S、サブメニュー］や［スタート］を押した後に操作してください。
決定	選んだ項目を実行する
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10/0 ≥10 12	トラックやチャプターを直接選ぶ • 数字ボタンを押した後、［決定］を押して実行する機種もあります。
一時停止 ❚❚	一時停止する
一時停止 ❚❚ ▼ ◀ ▶	コマ戻し/コマ送りする
停止 ■	再生を停止する

リモコンコードを入力して他の機器を操作する

リモコンコードを入力することで、受信部のある、当社製の AV 機器を操作できるようになります。
また、同様に一部の他社製 AV 機器も操作できます。コード一覧表を参照し、下記手順でコードを入力してください。
他社製 AV 機器を操作できる機能については、リモコン機能一覧表を参照してください。

対応する機器に応じて［テレビ］、[BD/DVD レコーダー]、[BD/DVD プレーヤー］または［ケーブルテレビ］を押したまま、数字ボタンでコード番号を入力する（➔ 下記）

（例）FUNAI 製テレビを操作する場合
　　［テレビ］を押したままにする → ［1］ → ［5］、［1］ → ［6］、［2］ → ［2］または［2］ → ［9］の順で数字ボタンを押す

設定後、リモコンから対応する機器に、電源入 / 切信号が出されます。
正しく設定されていれば、機器の電源が「入」または「切」になります。何も起こらない場合、別のコード番号を入力してください。

お知らせ

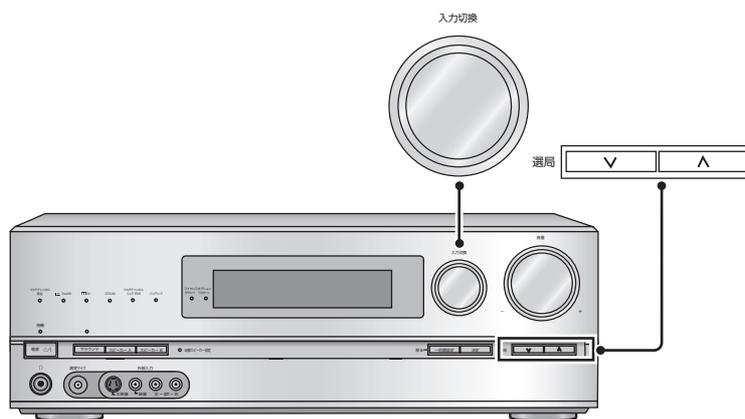
- 本機のリモコンでは操作できない機種もあります。また、操作できる機種でも、一部の機能が操作できないことがあります。
- 本機のリモコンの乾電池を新しく入れたときは、リモコンコードを入力し直してください。

■ コード一覧表

	テレビ	レコーダー	プレーヤー	ケーブルテレビ
Panasonic	01/02	01/40/41/42	01/40/41/42	01/02/03/04/05/06/07/08/09/10
Aichi Electronics	–	–	–	42/43
Aiwa	13	02	02	38/39/40
by D:sgn	14	–	–	–
Denon	–	03/04/05	03/04/05	–
DX Antenna	–	–	–	15/17/41
Fujitsu	27/28	–	–	16/18
Funai	15/16/22/29	–	–	–
Hitachi	01/06/09/17/30/51/54	13/14	13/14	19/44/45
Humax	–	–	–	46
JVC	–	06/07/08	06/07/08	20
Kenwood	–	09	09	–
LG	17/33/34	46	46	–
Marantz	–	39	39	–
MASPRO	–	–	–	11/12/13/15
Mitsubishi	01/09/10/17/35/36	–	–	–
NEC	05/11/12	–	–	11/21/37
Onkyo	–	15/16/17	15/16/17	–
Others	34/43/44/45/46	–	–	–
Philips	18	–	–	–
Pioneer	19/20/42/53	20/21/22/23/24/25	20/21/22/23/24/25	16/17/26
Samsung	21/22/23/24/25/26	26/33	26/33	–
Sanyo	08/38/39	27/28/29/30	27/28/29/30	–
Scientific Atlanta	–	–	–	12/14
Sharp	04/50/55/56	10/11/12	10/11/12	22/23/24/25
Sony	03/37/52	31/32/43/44/45/47/48/49	31/32/43/44/45/47/48/49	31/32/33/34/35/36
Sumitomo	–	–	–	16/17/29/30
Toshiba	05/47/48/49	18/19/34/35/37/38	18/19/34/35/37/38	15/27/28
Victor	07/31/32/40/41	–	–	–
Wintersat	–	–	–	47
Yamaha	–	36	36	–

■ リモコン機能一覧表

テレビ	［電源］、［テレビ、入力切換］、［チャンネル ∧、∨］、［音量 ＋、－］、数字ボタン（0 ～ 9）
レコーダー	［電源］、［▶ 再生］、［■ 停止］、［❚❚ 一時停止］、［◀◀、▶▶ サーチ / スロー］（サーチ）、［I◀◀、▶▶I スキップ］（スキップ）
プレーヤー	［電源］、［▶ 再生］、［■ 停止］、［❚❚ 一時停止］、［◀◀、▶▶ サーチ / スロー］（サーチ）、［I◀◀、▶▶I スキップ］（スキップ）
ケーブルテレビ	［電源］、［チャンネル ∧、∨］、数字ボタン（0 ～ 9）

ラジオを聞く

放送局を記憶させて聞く

自動で記憶させる（オートメモリー）

1. ***FM*** **の場合は 76.0 MHz、*AM* の場合は 522 kHz に合わせる（➔ 45 ページ）**
   - お好みの周波数から始めることができます。
     その場合は、それより前の周波数の放送局は記憶されません。
   - FM、AM それぞれ 30 局ずつ記憶できます。
2. **「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）**
3. **[▲][▼] を押して“*TUNER*”を選び、[決定] を押す**
4. **[▲][▼] を押して“*AUTO MEMO*”を選び、[決定] を押す**
5. **[▲][▼] を押して“*START*”を選び、[決定] を押す**

- 中止するには“***CANCEL***”を選んでください。

お知らせ

- オートメモリーが始まり、“M”が点灯します。
- オートメモリーが終了すると“***SET OK***”と表示されます。その後、最後に記憶された放送局の周波数が表示されます。
- 電波が弱い、あるいは強すぎるなどの理由で正確にオートメモリーできないことがあります。その場合はマニュアルメモリーを行ってください。
- オートメモリー中に中止するには［決定］を押してください。

手動で記憶させる（マニュアルメモリー）

1. **好みの放送局を受信する（➔ 45 ページ）**
2. **「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）**
3. **[▲][▼] を押して“*TUNER*”を選び、[決定] を押す**
4. **[▲][▼] を押して“*MEMORY*”を選び、[決定] を押す**
5. **[▲][▼] を押して記憶させるチャンネルを選び、[決定] を押す**
   - チャンネルを決定すると“***STORED***”が表示されます。
   - 続けてメモリーする場合は手順 1 から行ってください。
6. **設定を終える（➔ 34 ページ）**
   - 放送受信を“***MONO***”に設定した状態もメモリーできます。（➔ 45 ページ）

メモリーした放送局を聞く

1. **[FM/AM] を押して、“*FM*”または“*AM*”を選ぶ**
2. **[チャンネル ∧、∨] を押して、チャンネルを選ぶ**

☞数字ボタンでチャンネルを選ぶ場合

チャンネル 10 以上の選び方
例）10：[12、≧ 10] → [1] → [10/0]
　　25：[12、≧ 10] → [2] → [5]

お知らせ

本体では操作できません。

周波数を合わせて放送局を選ぶ

- **TUNED**：正確に受信すると点灯
- **ST**：FM ステレオ放送を受信すると点灯

本体で操作する

1. [入力切換] を回して、“***FM***”または“***AM***”を選ぶ
2. [選局 ∨ 、∧] を押して、放送局を受信する

リモコンで操作する

1. [FM/AM] を押して、“***FM***”または“***AM***”を選ぶ
2. [◀◀] [▶▶] を押して、放送局を受信する

■自動的に選局するには（オートチューニング）
本体の［選局 ∨、∧］またはリモコンの [◀◀] [▶▶] を押したままにし、周波数表示が変わり始めたら指を離す

- 最初に受信した放送局で自動停止します。
- オートチューニング中、周囲に電波妨害があると、放送局を受信せずに停止することがあります。

お知らせ
オートチューニング中に中止するには本体の［選局 ∨、∧］またはリモコンの [◀◀] [▶▶] を押してください。

ラジオ受信中に雑音が多いとき

■ FM ステレオ放送で雑音が多いとき（FM モード）
モノラル音声に切り換えて、雑音を減らします。

1. 「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）
2. [▲] [▼] を押して“***TUNER***”を選び、［決定］を押す
3. [▲] [▼] を押して“***FM MODE***”を選び、［決定］を押す
4. [▲] [▼] を押して“***MONO***”を選び、［決定］を押す
   - モノラル音声に設定すると表示部に“**MONO**”が点灯します。
   - 解除するには“***AUTO***”を選んでください。
5. 設定を終える（➔ 34 ページ）

■ AM 放送で雑音が多いとき（ビートプルーフ モード）

1. 「初期設定」に入る（➔ 34 ページ）
2. [▲] [▼] を押して“***TUNER***”を選び、［決定］を押す
3. [▲] [▼] を押して“***BEAT PROOF***”を選び、［決定］を押す
4. [▲] [▼] を押して“***MODE 1***”または“***MODE 2***”を選び、［決定］を押す
   初期設定：***MODE 1***
5. 設定を終える（➔ 34 ページ）

お知らせ
“***MODE 1***”と“***MODE 2***”は、変更して音が改善される方を選んでください。

その他の情報

バイワイヤー対応のスピーカーを接続するときのお知らせ

バイワイヤー対応のスピーカーとは、高周波域と低周波域で独立した接続端子があるスピーカーのことです。(➔ 20 ページ)

- バイワイヤー接続すると、高周波域と低周波域で相互干渉がなくなり、高音質な再生が楽しめます。
- HF は高周波域、LF は低周波域のことです。

SH-FX70 でサラウンドスピーカーなどをワイヤレスにするときのお知らせ

- サラウンドスピーカーなどをワイヤレスにした場合の音声出力は、以下のようになります。(➔ 21 ページ)
  - 最大で、7.1 チャンネル再生になります。(SH-FX70 が 2 台必要となります。)
    SH-FX70 を使用して 7.1 チャンネル再生を楽しむためのサラウンドセレクターの設定については、SH-FX70 の取扱説明書をご覧ください。

付属の測定マイクで自動的にスピーカーの設定をする場合
先にデジタルトランスミッターを差し込んでください。
設定後に差し込むと、設定が無効になります。
また、差し込んだ状態で設定したときは、デジタルトランスミッターを抜くと、設定が無効になります。

本機で再生できるデジタル信号

- 接続している機器により、再生される状態が異なります。(対応していない場合、再生できないこともあります。)
  詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- 各デジタル信号の詳細については「用語解説」(➔ 48 ページ)を参照してください。

■AAC
BS デジタル放送など

■Dolby Digital（Dolby Digital Surround EX、Dolby Digital +、Dolby TrueHD も含む）
ブルーレイディスクや DVD など

■DTS（DTS-ES、DTS 96/24、DTS-HD も含む）
ブルーレイディスクや DVD など

■PCM (2 チャンネル)
CD や DVD オーディオなど

- 本機では、HDMI 端子と同軸デジタル入力端子は 192 kHz まで、光デジタル入力端子は 96 kHz まで再生できます。
- 88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz の周波数を持つ信号が入力されると、その周波数が表示部に出ます。

■マルチチャンネル LPCM（リニア PCM)
ブルーレイディスクや DVD オーディオなど

- HDMI 接続をしている場合では、192 kHz までのマルチチャンネル LPCM 信号を再生できます。

音声信号のディスプレイ表示

DIGITAL
ドルビーデジタルデコーダーが動作しているとき

DIGITAL EX
ドルビーデジタルの 5.1 チャンネルやドルビーデジタル EX にドルビーデジタル EX デコーダー（ドルビープロロジックⅡx デコーダー）が動作しているとき（サラウンドバックスピーカーを 1 本接続している場合のみ表示）

EX
DTS や AAC の 5.1 チャンネルにドルビーデジタル EX デコーダー（ドルビープロロジックⅡx デコーダー）が動作しているとき（サラウンドバックスピーカーを 1 本接続している場合のみ表示）

PL Ⅱx
ドルビープロロジックⅡx デコーダーを使用しているとき

AAC
AAC デコーダーが動作しているとき

PL Ⅱ
サラウンドバックスピーカーが無い場合に、2 チャンネルのステレオソースにドルビープロロジックⅡx デコーダーを使用すると表示されます。(ドルビープロロジックⅡデコーダーを使用しているとき)

DTS
DTS デコーダーが動作しているとき

DTS 96/24
DTS 96 ／ 24 デコーダーが動作しているとき

DTS-ES
DTS-ES デコーダーが動作しているとき

NEO:6
DTS NEO:6 デコーダーを使用しているとき

SFC
SFC 機能を使用しているとき

自動スピーカー設定についてのお知らせ

- スピーカーの配置や方向などの条件により、正しく設定されない場合があります。
- 低域フィルターの設定は、サイズを SMALL と判定したスピーカーで、1 番低い周波数まで出せるスピーカーの周波数に設定されます。
- 左右のスピーカーのサイズが違う場合は両方とも SMALL に設定されます。
- サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーのサイズが違う場合は、すべて SMALL に設定されます。
- サブウーハーを接続せずに自動スピーカー設定を実行すると、左右フロントスピーカーのサイズが SMALL でも、LARGE に設定されます。
- 「バイワイヤー接続の設定をする」(➔ 36 ページ)で"***YES***"に設定している場合、左右フロントスピーカーの極性の検出と補正はされません。
- 自動スピーカー設定動作中は、ビエラリンク(HDMI)機能(➔ 30、31 ページ)は働きません。
- 消音中(➔ 29 ページ)は、自動スピーカー設定機能は使用できません。
- 距離が 15 m の範囲を超えた場合は、15 m として設定され、「距離の設定をする」(➔ 35 ページ)で"***OVER***"と表示されます。
- 極性を自動補正したスピーカーには「距離の設定をする」(➔ 35 ページ)で"***L 3.0 –***"のように"**–**"が表示されます。

スピーカーサイズについて

LARGE(ラージ)
十分な低域が再生できるスピーカー。

SMALL(スモール)
LARGE の条件に満たないスピーカー。サブウーハーを接続することで十分な低域を再生することができます。スピーカーのサイズを手動で変更するには、「スピーカーの有無とサイズを設定する」(➔ 35 ページ)を参照してください。

低域フィルターについてのお知らせ

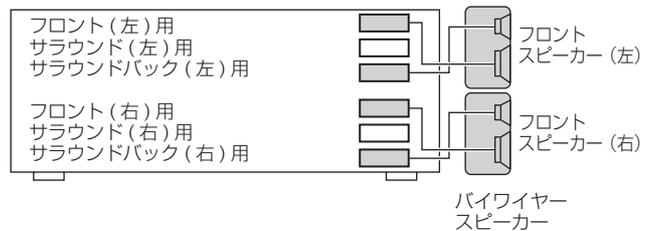
- スピーカーが SMALL の場合は、低域を十分に再生できません。
- 再生できる周波数に応じて低域フィルターの周波数を設定し、不足している低域をサブウーハーに出力させます。

スピーカー B についてのお知らせ

- スピーカー B のみを使用した場合は、2 チャンネルの再生になります。
- スピーカー B のみ選択している場合に、入力がサラウンドソースであれば、"2CH MIX"が表示されます。
- アナログ 8CH 接続をしているときは、フロント 2 チャンネルの音声が出力されます。
- スピーカー B のみ選択している場合、「スピーカーの有無とサイズを設定する」(➔ 35 ページ)の設定に関わらず、以下の動作状態に固定されます。
  スピーカーのサイズ:"***LARGE***"(ラージ)
  サブウーハー:"***NO***"(無し)(低域成分はフロントスピーカーから出力されます)
- 自動スピーカー設定(➔ 22、23 ページ)での設定は無効になります。

バイアンプのお知らせ

バイワイヤー接続のとき、アナログ音声や 2 チャンネルの PCM 信号を再生させると自動的に機能します。

- フロント用とサラウンドバック用のアンプを利用して、スピーカーの高域と低域を別々に駆動する機能です。
- [サラウンド] を「切」にしてください。(➔ 27 ページ)
- アナログ 8CH のときはバイアンプ機能は使用できません。
- 機能が働いているときは [バイアンプ] ランプが点灯します。(➔ 4 ページ)

アナログ 8CH 接続の場合のお知らせ

ブルーレイディスク/DVD プレーヤー側の設定はお使いの機器に合わせた設定にしてください。

スピーカーの有無とサイズの設定についてのお知らせ

LR(フロント)を"***LARGE***"にした場合

- アナログ信号や PCM 信号をステレオで再生している場合、サブウーハーからも低域の音声が出力されます。
- ドルビーデジタル、DTS、AAC の 2 チャンネルの信号をステレオで再生している場合、ソースに含まれる LFE(重低音効果チャンネル)信号以外は、サブウーハーから出力されません。
- 下記の場合、自動的に設定されます。
  LR(フロント)を"***SMALL***"にすると、***SUBW***(サブウーハー)は"***YES***"、***SUBW***(サブウーハー)を"***NO***"にすると、***LR***(フロント)は"***LARGE***"
- ***SB***(サラウンドバック)は ***S***(サラウンド)が"***NONE***"の場合、表示されません。
- ***SB***(サラウンドバック)のサイズは、***S***(サラウンド)で選択したサイズと同じになります。
- スピーカーの本数を変更すると、自動スピーカーの設定は無効になります。(➔ 22、23 ページ)
- 「スピーカーサイズについて」(➔ 左記)もご覧ください。

用語解説

アナログ
一般的な再生機器に装備されている左（L）/ 右（R）音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

サラウンド信号
フロント、センター、サラウンドチャンネルで構成された音声信号です。

サンプリング周波数
サンプリングとは、音の波（アナログ信号）を一定時間の間隔で刻み､刻まれた波の高さを数値化（デジタル信号化）することです。１秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、回数が多ければ多いほど原音に近い音を再現でき、高音質になります。

ダイナミックレンジ
機器が出すノイズにうもれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

ディープカラー
本機は、ディープカラーをサポートしています。
ディープカラーとは、HDMI でサポートする高画質化技術の一つで、現状の各色 8 ビットを超えるカラー階調に対応することで、現行の約 1677 万色から数十億色まで表現可能な色数を増やす技術です。

デコーダー、デコード
DVD などに符号化して記録した音声データを通常の音声信号に戻す装置をデコーダーといいます。また、この処理をデコードといいます。

デジタル
デジタル端子は一般的に、ブルーレイディスクレコーダー、DVD レコーダー、ブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤー、CD プレーヤーなどに装備されています。ドルビーデジタルや DTS などのデジタル音声を聞くときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

光（OPTICAL）デジタル
DVD や CD などのデジタル信号を入出力するための信号で光デジタルケーブルを使用して接続します。アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。

AAC 信号
ＢＳデジタル放送や地上波デジタル放送に採用されている圧縮音声です。サラウンド音声を再生できます。

CPPM
コンテント プロテクション フォー プリレコーディッド メディア
Content Protection for Prerecorded Media の略。
DVD オーディオのファイルコピーを防止する著作権保護技術です。

ドルビー デジタル
Dolby Digital
ドルビー社の開発したデジタル音声の圧縮方式です。ステレオ（2 チャンネル）はもちろん、サラウンド音声にも対応しており、大量の音声データを効率よくディスクに収めることができます。

ドルビー デジタル
Dolby Digital +
ドルビーデジタルの改良版で、さらなる高音質、5.1 チャンネル以上の多チャンネル、より広いビットレートを実現しています。

ドルビー デジタル サラウンド
Dolby Digital Surround EX
ドルビーデジタルの改良版で、5.1 チャンネルにサラウンドセンターを加えた 6.1 チャンネルで再生できます。

ドルビー プロ ロジック ドルビー プロ ロジック
Dolby Pro Logic Ⅱ/Dolby Pro Logic Ⅱx
ドルビーサラウンドだけでなく、2 チャンネル で記録されたあらゆるソースを、よりリアルな音場で 5.1 / 7.1 または 6.1 チャンネル 音声に変換します。従来の 2 チャンネル 音声（モノラル音声は除く）だけで記録された古い映画も、5.1/7.1 または 6.1 チャンネル の迫力ある音声で楽しめます。

ドルビー トゥルー
Dolby TrueHD
DVD オーディオで採用されている MLP ロスレスの機能拡張版でスタジオマスターの音声データを完全に再生する高品位な音声方式です。
ブルーレイディスクなどに使用される場合にのみ Dolby True HD が使われ、DVD オーディオフォーマットでは使用することはできません。

ディーティーエス デジタル シアター システム
DTS (Digital Theater Systems)
映画館で多く採用されているサラウンドシステムです。チャンネル間のセパレーションも良く、リアルな音響効果が得られます。

ディーティーエス
DTS 96/24
96 kHz · 24 ビットに高音質化された DTS で、DVD ビデオなどで採用されています。下位互換性により DTS 96/24 非対応機器では 48 kHz · 24 ビットで再生されます。

ディーティーエス イーエス
DTS - ES
DTS の改良版で、5.1 チャンネルにサラウンドセンターを加えた 6.1 チャンネルで再生できます。

ディーティーエス エイチディー
DTS - HD
映画館で採用されている DTS をさらに高音質/高機能化した音声方式で、下位互換性により従来の AV アンプでも DTS として再生できます。
エンコード方式とビットレートに応じて主に、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、DTS Digital Surround の 3 種類に分けられます。
フォーマット自体は 2048 チャンネルまで対応していますが、次世代 DVD（ブルーレイディスクなど）の規格では最大 8 チャンネル (7.1 チャンネル) となります。

エイチディーエムアイ
HDMI
ハ イ デフィニション マルチメディア インターフェイス
HDMI は High-Definition Multimedia Interface の略です。
１本のケーブルで映像と音声のデジタル信号が伝送できます。
また、コントロール信号も伝送できます。

エルピーシーエム ピーシーエム
LPCM（リニア PCM）
PCM 方式の一種で、圧縮せずにデジタルに置き換えられた音声信号です。音楽 CD などで使われている方式です。また、ブルーレイディスクや DVD オーディオなどでは、マルチチャンネルの LPCM が使われており、より高音質な再生が可能です。
本機では、7.1 チャンネルまでの LPCM を入力することができます。

ピーシーエム パルス コード モジュレーション
PCM（Pulse Code Modulation）
アナログ音声をデジタル音声に変換する方式の１つです。

カラー
x.v.Color
広色域色空間の国際標準規格「xvYCC」に準拠した製品の名称です。

1080p
デジタルハイビジョン映像の 1 つです。
実際の画面を構成する有効走査線数は 1080 本で、細部まできれいに表現されます。また、上から順に走査するプログレッシブ方式で、ちらつきの少ない画像になります。

仕様

■ アンプ部
実用最大出力（サラウンドモード 各 ch 動作時）
フロント（L/R） 100 W ＋ 100 W（6 Ω、JEITA）
センター 100 W（6 Ω、JEITA）
サラウンド（L/R） 100 W ＋ 100 W（6 Ω、JEITA）
サラウンドバック（L/R） 100 W ＋ 100 W（6 Ω、JEITA）
実用最大出力（ステレオ時） 100 W ＋ 100 W（6 Ω、JEITA）
出力帯域幅 4 Hz ～ 40 kHz,（出力 50 W、6 Ω、0.9 %）
全高調波ひずみ率
Half of rated power at 1 kHz 0.3 %（6 Ω）
負荷インピーダンス
フロント（L/R）
A または B 4 ～ 16 Ω
A と B 6 ～ 16 Ω
BI-WIRE 4 ～ 16 Ω
センター 6 ～ 16 Ω
サラウンド（L/R） 6 ～ 16 Ω
サラウンドバック（L/R） 6 ～ 16 Ω
周波数特性
CD、外部入力、テレビ、ゲーム、ケーブルテレビ、ビデオデッキ、BD/DVD プレーヤー /BD プレーヤー 8CH、BD/DVD レコーダー 4 Hz ～ 40 kHz、± 2 dB
入力感度/入力インピーダンス
CD、外部入力、テレビ、ゲーム、ケーブルテレビ、ビデオデッキ、BD/DVD プレーヤー /BD プレーヤー 8CH、BD/DVD レコーダー 200 mV/22 kΩ
信号対雑音比（S/N 比）
CD、テレビ、BD/DVD プレーヤー、BD/DVD レコーダー（デジタル入力） 97 dB
トーンコントロール特性
低音 50 Hz、+10 ～− 10 dB
高音 20 kHz、+10 ～− 10 dB
定格出力電圧
BD/DVD レコーダー出力 200 mV

デジタル入力（光）	3
（同軸）	1

HDMI 入力（ディープカラー対応）	3
HDMI 出力（ディープカラー対応）	1

本システムは、ビエラリンク Ver.3 に対応しています。

■ FM チューナー部
受信周波数帯 76.0 ～ 90.0 MHz
実用感度 16.3 dBf (3.6 μ V、IHF' 58)
全高調ひずみ率
MONO 0.3 %
STEREO 0.5 %
アンテナ端子 75 Ω（不平衡型）

■ AM チューナー部
受信周波数帯 522 ～ 1629 kHz

■ 映像部
出力電圧（1 V 入力時） 1 ± 0.1 Vp-p
最大入力電圧 1.5 Vp-p
入出力インピーダンス（アンバランス） 75 Ω
コンポジットビデオ
入力 BD/DVD レコーダー、BD/DVD プレーヤー、ビデオデッキ、ケーブルテレビ、ゲーム、外部入力
出力 テレビモニター、BD/DVD レコーダー
S-ビデオ
入力 BD/DVD レコーダー、BD/DVD プレーヤー、ビデオデッキ、ケーブルテレビ、ゲーム、外部入力
出力 テレビモニター、BD/DVD レコーダー
コンポーネントビデオ
入力 BD/DVD レコーダー、BD/DVD プレーヤー、ケーブルテレビ
出力 テレビモニター

■ 総合
電源 AC 100 V、50/60 Hz
消費電力 140 W
寸法（幅×高さ×奥行き） 430 mm × 158.5 mm × 339 mm
質量 約 5 kg
動作温度 0℃～ 40℃
動作湿度 20 % ～ 80 %（結露のないこと）

電源スタンバイ時の消費電力	約 0.6 W
省待機電力モード時	約 0.3 W

注）
1. この仕様は、性能向上のため変更することがあります。
2. 全高調波ひずみ率は、スペクトラムアナライザーによる第 10 次高調波までの総和です。

「JIS C 61000-3-2 適合品」
：JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性一第 3-2 部：限度値一高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

こんな表示が出たら

	表示	原因／対策
1	***U701***	HDMI 接続した機器が、本機の著作権保護に対応していません。
2	***U704***	HDMI 接続で、本機が対応していない映像フォーマットを受信しました。接続した機器の設定を確認してください。
3	***U703***	• HDMI 接続で異常があります。以下の処置をしてください。それでも直らないときは、販売店にご相談ください。 — 接続した機器の電源を「切/入」してください。 — HDMI ケーブルを抜き差ししてください。 — 本機出力側の接続台数が 2 台を超えないようにしてください。
4	***U30 REM2*** または ***U30 REM1***	リモコンモードを設定し、本体とリモコンのモードを合わせてください。 "***U30 REM2***" が表示された場合、リモコン側のモードを "***2***" にしてください。 "***U30 REM1***" が表示された場合は、リモコン側のモードを "***1***" にしてください。（➔ 40 ページ）
5	***CANCEL MUTING FUNCTION***	消音機能が働いています。リモコンの [消音] を押して解除してください。（➔ 29 ページ）
6	***NO C AND LS/RS SPEAKERS***	センターとサラウンドのスピーカーが「無」の設定になっています。「有」の設定にしてください（➔ 35 ページ）。
7	***NO LS/RS SPEAKERS***	サラウンドスピーカーが「無」の設定になっています。「有」の設定にしてください（➔ 35 ページ）。
8	***NO LS/RS AND SBL/SBR SPEAKERS***	サラウンドとサラウンドバックのスピーカーが「無」の設定になっています。「有」の設定にしてください（➔ 35 ページ）。
9	***NO SBL/SBR SPEAKERS***	サラウンドバックスピーカーが「無」の設定になっています。「有」の設定にしてください（➔ 35 ページ）。
10	***NOT POSSIBLE FOR ANALOG 8CH INPUT***	アナログ 8CH には使用できない効果を使用しようとしています。
11	***NOT POSSIBLE FOR THIS INPUT SOURCE***	現在の入力ソースには使用できない効果を使用しようとしています。
12	***PCM FIX*** （点滅）	PCM FIX モードになっています。解除してください。（➔ 37 ページ）
13	***SELECT SPEAKER A***	スピーカー A が「切」になっています。スピーカー A を選択してください。（➔ 24 ページ）
14	***SPEAKERS ARE OFF***	スピーカーの A と B が「切」になっています。どちらかのスピーカーを選択してください。（➔ 24、25 ページ）
15	***NOT SUPPORT FOR THIS WIRELESS SYSTEM***	このワイヤレスシステムには対応していません。（➔ 21 ページ）

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。なお、これらの処置をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お買い上げの販売店にご相談ください。

こんなときは	ここを確認、処置してください	ページ
共通		
電源が入らない。	• 電源プラグがコンセントに正しく接続されているか、確認してください。	10
機器の再生を始めても音や映像が出ない。または音がおかしい。	• 音量を確認してください。 • スピーカー表示が消灯している場合は、スピーカー A または B を選択してください。 • 入力切換（音源）を正しく選択してください。 •「消音」を解除してください。 • 本機で再生できるデジタル信号か確認してください。 • スピーカーや機器が正しく接続されているか確認してください。 • 入力端子の設定を確認してください。 • PCM FIX モードを解除してください。 • DVD オーディオでは、著作権の関係上、デジタルで音声が出力できない場合があります。	13、24 22、24、25 13、24 29 46 8～11、14～21 37 37 —
音が出なくなった。 本機は異常を検出すると、保護回路が働いて、電源を自動的に切ります。	• スピーカーコードの ⊕ と ⊖ がショートしていませんか。 • スピーカーインピーダンスが本機の許容範囲より低くないですか。 • 著しい大音量で聞いていませんか。 • 異常に暑い場所で使用していませんか。 • カーテンや異物により、排気孔をふさいでいませんか。 ➔ 原因を解消して、しばらく待ってから再び電源を入れてください。（保護回路の動作が解除されます。）（それでも同じ現象が起こる場合は販売店にご相談ください。）	8 8、20 — — —
“*F□□* ”が表示され、電源が切れる。（□□には数字が入ります）	• 電源を切り、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	—
表示部が暗い。	•“***DIMMER*** ”（ディマー）を解除してください。	35
再生中、カチッと音がする。	• DVD などを再生すると、入力信号によりバイアンプ機能が自動的に切り換わります。その際、カチッと音がしますが、故障ではありません。	—
測定マイク		
“*MEASURING ERROR* ”と表示される。	• 原因が特定できないエラーが発生しました。再度、測定をやり直してください。 • スピーカーまでの距離が遠すぎます。設置場所を確かめてください。	22、23 —
距離の設定（➔ 35 ページ）で、スピーカーに“*L 3.0 –* ”のように“–”が表示される。	• 極性を自動補正したスピーカーに表示されます。 ➔ 極性を自動補正しない設定もできます。	 36
距離の設定（➔ 35 ページ）で、距離が“*OVER* ”と表示される。	• 距離の測定値が 15 m を超えた場合に表示されます。スピーカーの設置などを確認してください。	—
音質・音場効果		
センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サブウーハーから音が聞こえない。	• スピーカーやサブウーハーの有無、または、サイズの設定を確かめてください。 • ドルビープロロジックⅡx、NEO:6、SFC の設定を確かめ、適切なモードを選んでください。 • 2 チャンネルのステレオソースの場合は、[サラウンド] を「入」にしてください。	22、23、35 26 ～ 28 11、27
サラウンドバックスピーカーから音が聞こえない。	• スピーカーの有無とサイズの設定を確かめてください。 • [サラウンド] を「入」にしてください。	22、23、35 11、27
ドルビープロロジックⅡxや NEO:6、SFC が使えない。	• センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーの接続を確認してください。 • スピーカー A を「入」にしてください。 • アナログ 8CH を解除してください。 • BS デジタル放送などの二重音声には使用できません。	8、9 24 25 —
BS デジタル放送で二重音声放送の切り換えができない。	• BS デジタルチューナーの音声出力を AAC に切り換えてください。	—
ラジオ		
受信できない。 雑音やひずみが多い。	• アンテナの向きや位置を変えてみてください。 • 音質の調整で、高域（“***TREBLE*** ”）を調整してみてください。 • 本機、ブルーレイディスク／ DVD レコーダー、ブルーレイディスク／ DVD プレーヤー、テレビやビデオデッキから AM ループアンテナを離してください。 • FM 屋外アンテナに替えてみてください。 • アンテナと他のコードを遠ざけてください。 • AM 受信の場合、「ビートプルーフ モード」でモードを切り換えてみてください。	— 33 21 21 — 45

こんなときは	ここを確認、処置してください	ページ
HDMI		
DVD やブルーレイディスクなどマルチチャンネルの音声が 2 チャンネルで再生される。（Dolby Digital や Dolby TrueHD などマルチチャンネルを示すインジケーターが点灯しません）	• ビエラリンク (HDMI) を使用している場合、スピーカー切換を「音声をテレビから出す」にしているときは、本機からは 2 チャンネルの音声のみ出力されます。テレビ（ビエラ）のリモコンのビエラリンクボタンを押し、スピーカー切換を「音声を AV アンプから出す」にしてください。	30
HDMI 接続で、始めの数秒間の音声が再生されない。	• DVD などをチャプターから再生した場合に、起こることがあります。以下の処置をしてください。 ― ブルーレイディスク/DVD レコーダーまたはブルーレイディスク/DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定をビットストリーム設定から PCM 設定にしてください。（ただし、6.1 チャンネルソースは 5.1 チャンネルで再生されます。） ― 2 チャンネルソースの場合は、さらに「入力信号の判別方法を切り換える」で“***PCM***”にしてください。	― 37
正常に動作しない。	• HDMI の入力端子と出力端子を間違えて接続すると、正常に動作しません。接続し直すときは、一度電源を切り、電源プラグを抜いてから接続してください。	10、11、14
ビエラリンク (HDMI) が働かなくなった。	•「ビエラリンク（HDMI）を使わない設定にする」で“***ON***”に設定しているか確認してください。“***OFF***”になっている場合は、“***ON***”に変更してください。 • 省待機電力モードにしている場合、本機の電源「切」時には、ビエラリンク (HDMI) が働きません。「本機の電源「切」時の消費電力を下げる（省待機電力モード)」で“***ON***”に変更してください。 • 接続した機器側のビエラリンク（HDMI）の設定を確認してください。 • HDMI 機器の接続を変更したとき、停電やコンセントの抜き差しをしたときなどにビエラリンク(HDMI)が動作しなくなる場合があります。このときは、以下の操作をしてください。 ― HDMI ケーブルで接続したすべての機器の電源を入れた状態で、テレビ（ビエラ）の電源を入れ直す。 ― テレビ（ビエラ）の「ビエラリンク（HDMI）制御（HDMI 機器制御）」の設定を「しない」に変更し、再度「する」に設定する。（詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書をご覧ください。） ― テレビ（ビエラ）と本機を HDMI ケーブルで接続して、テレビ（ビエラ）の電源を入れ、そのまま本機の電源プラグを一度抜いてから接続し直す。	38 38 ― ―
HDMI 入力端子に複数の機器を接続している場合に自動で電源が「入 / 切」してしまう機器がある。	• ビエラリンク（HDMI）対応機器の場合、一部の連動操作が働きます。機能を働かせたくない場合は、接続した機器（レコーダー（ディーガ）など）側でビエラリンク（HDMI）機能を働かせない設定にしてください。	―
リモコン		
リモコンが働かない。	• 電池が消耗している場合は電池を交換してください。	5
他のオーディオ機器が動作する。	• 本機のリモコンモードを“***REMOTE 2***”に切り換えてください。	40

Q&A（よくあるご質問）

Q（質問）	A（回答）
カラオケ用マイクを接続したい。	本機ではカラオケ用マイクは使用できません。 測定マイク端子に接続しないでください。
ブルーレイディスク /DVD プレーヤーにマイクを接続してカラオケを楽しもうとしたが、マイクの音が出ない。	ブルーレイディスク /DVD プレーヤーと本機をデジタル接続している場合はマイクの音は出力されません。アナログ接続して、アナログ入力にしてください。(➔ 18、37 ページ)
DTS の音声が出ない。 音声は出るが DTS 表示が点灯しない。	ブルーレイディスク /DVD レコーダーまたはブルーレイディスク /DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定が、ビットストリーム出力であることを確かめてください。
デジタル接続で、DVD オーディオを再生しても音が出ない。	本機は CPPM に対応していますので、HDMI ケーブルで接続すると、DVD オーディオの音声を楽しむことができます。(➔ 10、11、14 ページ)
長時間使用すると、本体が熱くなるが、大丈夫か。	大丈夫です。ただし、本体後面の排気孔を物でふさぐなど、放熱を妨げることはしないでください。
引っ越しするのだが、そのまま使えるか。	東日本、西日本に関係なく使えます。

お手入れ

電源プラグをコンセントから抜き、乾いた柔らかい布でふいてください。

• 汚れがひどいときは、水にひたした布をよく絞ってから汚れをふき取り、そのあと、乾いた布でふいてください。
• ベンジン、シンナー、アルコール、台所洗剤などの溶剤は、外装ケースが変質したり、塗装がはげるおそれがありますので使用しないでください。
• 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

- このマークがある場合は -

ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報

このシンボルマークは EU 域内でのみ有効です。製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

安全上のご注意（必ずお守りください）

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です。）

警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
注意	「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

⚠ 警告

電源コード・プラグを破損するようなことはしない

（傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない）

傷んだまま使用すると、火災・感電・ショートの原因になります。

- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

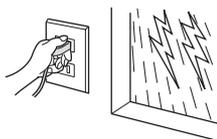
差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

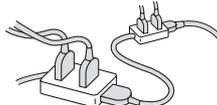
- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは、使わないでください。

電源プラグのほこり等は定期的にとる

プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

雷が鳴ったら、本機や電源プラグ、アンテナ線に触れない

感電の原因になります。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流 100 V 以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

感電の原因になります。

内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない

ショートや発熱により、火災・感電の原因になります。

- 機器の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

異常があったときは、電源プラグを抜く

- **内部に金属や水などの液体、異物が入ったとき**
- **落下などで外装ケースが破損したとき**
- **煙や異臭、異音が出たとき**

そのまま使うと、火災・感電の原因になります

- 販売店にご相談ください。

分解、改造をしない

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。

- 内部の点検や修理は、販売店にご依頼ください。

本機のイラスト（姿図）は、イメージイラストであり、ご購入のものとは形状が多少異なる場合がありますが御了承ください。

⚠ 警告

電池は誤った使いかたをしない

- 乾電池は充電しない
- 加熱・分解したり、水などの液体や火の中へ入れたりしない
- ⊕と⊖を針金などで接続しない
- 金属製のネックレスやヘアピンなどといっしょに保管しない
- ⊕と⊖を逆に入れない
- 新・旧電池や違う種類の電池をいっしょに使わない
- 被覆のはがれた電池は使わない
- 乾電池の代用として充電式電池を使わない

取り扱いを誤ると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になります。

- 電池には安全のために被覆をかぶせています。これをはがすとショートの原因になりますので、絶対にはがさないでください。

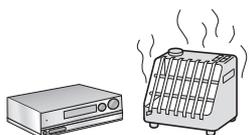
電池の液がもれたときは、素手で液をさわらず、以下の処置をする

- 液が目に入ったときは、失明の恐れがあります。目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと医師にご相談ください。
- 液が身体や衣服に付いたときは、皮膚の炎症やけがの原因になるので、きれいな水で十分に洗い流したあと、医師にご相談ください。

使い切った電池は、すぐにリモコンから取り出す

そのまま機器の中に放置すると、電池の液もれや、発熱・破裂の原因になります。

⚠ 注意

異常に温度が高くなるところに置かない

外装ケースや内部部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。

- 直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

放熱を妨げない

内部に熱がこもると、外装ケースが変形したり、火災の原因になることがあります。

- 後面の排気孔をふさがないでください。

油煙や湯気の当たるところ、湿気やほこりの多いところに置かない

電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災・感電の原因になることがあります。
たばこの煙なども製品の故障の原因になることがあります。

不安定な場所に置かない

- 高い場所、水平以外の場所、振動や衝撃の起こる場所に置かない

倒れたり落下すると、けがや製品の故障の原因になることがあります。

長期間使わないときは、リモコンから電池を取り出す

液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

コードを接続した状態で移動しない

接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。また、引っかかって、けがの原因になることがあります。

屋外アンテナの設置・工事は自分でしない

強風でアンテナが倒れた場合に、けがや感電の原因になることがあります。

- 設置･工事は販売店にご相談ください。

本機の上に重いものを載せたり、乗ったりしない

倒れたり落下すると、けがや製品の故障の原因になることがあります。また、重量で外装ケースが変形し、内部部品が破損すると、火災・故障の原因になることがあります。

長期間使わないときや、お手入れのときは、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、ろう電などにより、火災の原因になることがあります。

保証とアフターサービス（よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は・・・

● 修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
● 使いかた・お買い物などのお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■ 保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保管してください。

保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間

■ 補修用性能部品の保有期間 8年

当社は、このAVコントロールアンプの補修用性能部品を、製造打ち切り後8年保有しています。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

50～51ページの表に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

● 保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

● 保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。右記修理料金の仕組みをご参照のうえ、ご相談ください。

● 修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

パナソニック株式会社およびその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、折り返し電話させていただくときのため、ナンバー・ディスプレイを採用しています。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容			
製品名	AVコントロールアンプ	お買い上げ日	年　　月　　日
品　番	SA-BX500	故障の状況	できるだけ具体的に

「よくあるご質問」「メールでのお問い合わせ」などはホームページをご活用ください。
http://panasonic.jp/support/

修理に関するご相談

パナソニック 修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号） **0570-087-087**

• 呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
• 携帯電話・PHS・IP/光電話等、ナビダイヤルがご利用できない場合は、最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。
• 最寄りの修理ご相談窓口は、次ページをご覧ください。

使いかた・お買い物などのご相談

パナソニック お客様ご相談センター

365日／受付9時～20時

電話 フリーダイヤル **0120-878-365**（パナは365日）

■携帯電話・PHSでのご利用は… **06-6907-1187**

FAX フリーダイヤル **0120-878-236**

Help desk for foreign residents in Japan
Tokyo (03) 3256 - 5444　**Osaka** (06) 6645 - 8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

パナソニック

修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号） 0570-087-087

- 呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS・IP/光電話等、ナビダイヤルがご利用できない場合は、最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

- 地区・時間帯によって、集中修理ご相談窓口に転送させていただく場合がございます。

北海道地区

- **札幌** 札幌市厚別区厚別南2丁目17-7 ☎(011)894-1251
- **旭川** 旭川市2条通16丁目1166 ☎(0166)22-3011
- **帯広** 帯広市西20条北2丁目23-3 ☎(0155)33-8477
- **函館** 函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内） ☎(0138)48-6631

東北地区

- **青森** 青森市大字浜田字豊田364 ☎(017)775-0326
- **秋田** 秋田市外旭川字小谷地3-1 ☎(018)868-7008
- **岩手** 盛岡市厨川5丁目1-43 ☎(019)645-6130
- **宮城** 仙台市宮城野区扇町7-4-18 ☎(022)387-1117
- **山形** 山形市平清水1丁目1-75 ☎(023)641-8100
- **福島** 郡山市亀田1丁目51-15 ☎(024)991-9308

首都圏地区

- **栃木** 宇都宮市上戸祭3丁目3-19 ☎(028)689-2555
- **群馬** 前橋市箱田町325-1 ☎(027)254-2075
- **茨城** つくば市筑穂3丁目15-3 ☎(029)864-8756
- **埼玉** 桶川市赤堀2丁目4-2 ☎(048)728-8960
- **千葉** 千葉市中央区末広5丁目9-5 ☎(043)208-6034
- **東京** 東京都世田谷区宮坂2丁目26-17 ☎(03)5477-9780
- **山梨** 甲府市宝1丁目4-13 ☎(055)222-5822
- **神奈川** 横浜市港南区日野5丁目3-16 ☎(045)847-9720
- **新潟** 新潟市東区東明1丁目8-14 ☎(025)286-0180

中部地区

- **石川** 金沢市横川3丁目20 ☎(076)280-6608
- **富山** 富山市根塚町1丁目1-4 ☎(076)424-2549
- **福井** 福井市問屋町2丁目14 ☎(0776)21-0622
- **長野** 松本市寿北7丁目3-11 ☎(0263)86-9209
- **静岡** 静岡市葵区千代田7丁目7-5 ☎(054)287-9000
- **愛知** 名古屋市瑞穂区塩入町8-10 ☎(052)819-0225
- **岐阜** 岐阜市中鶉4丁目42 ☎(058)278-6720
- **高山** 高山市花岡町3丁目82 ☎(0577)33-0613
- **三重** 津市久居野村町字山神421 ☎(059)254-5520

近畿地区

- **滋賀** 栗東市霊仙寺1丁目1-48 ☎(077)582-5021
- **京都** 京都市伏見区竹田中川原町71-4 ☎(075)646-2123
- **大阪** 大阪市城東区関目2丁目15-5 ☎(06)6359-6225
- **奈良** 大和郡山市筒井町800番地 ☎(0743)59-2770
- **和歌山** 和歌山市中島499-1 ☎(073)475-2984
- **兵庫** 神戸市須磨区弥栄台3丁目13-4 ☎(078)796-3140

中国地区

- **鳥取** 鳥取市安長295-1 ☎(0857)26-9695
- **米子** 米子市米原4丁目2-33 ☎(0859)34-2129
- **松江** 松江市平成町182番地14 ☎(0852)23-1128
- **出雲** 出雲市渡橋町416 ☎(0853)21-3133
- **浜田** 浜田市下府町327-93 ☎(0855)22-6629
- **岡山** 岡山市田中138-110 ☎(086)242-6236
- **広島** 広島市西区南観音1丁目13-5 ☎(082)295-5011
- **山口** 山口市小郡下郷220-1 ☎(083)973-2720

四国地区

- **香川** 高松市勅使町152-2 ☎(087)868-6388
- **徳島** 徳島市沖浜2丁目36 ☎(088)624-0253
- **高知** 高知市仲田町2-16 ☎(088)834-3142
- **愛媛** 愛媛県伊予郡砥部町八倉75-1 ☎(089)905-7544

九州地区

- **福岡** 春日市春日公園3丁目48 ☎(092)593-9036
- **佐賀** 佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044 ☎(0952)26-9151
- **長崎** 長崎市東町1919-1 ☎(095)830-1658
- **大分** 大分市萩原4丁目8-35 ☎(097)556-3815
- **宮崎** 宮崎市本郷北方字草葉2099-2 ☎(0985)63-1213
- **熊本** 熊本市健軍本町12-3 ☎(096)367-6067
- **天草** 天草市港町18-11 ☎(0969)22-3125
- **鹿児島** 鹿児島市与次郎1丁目5-33 ☎(099)250-5657
- **大島** 奄美市名瀬朝仁町11-2 ☎(0997)53-5101

沖縄地区

- **沖縄** 浦添市城間4丁目23-11 ☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0608

さくいん

愛情点検　長年ご使用のＡＶコントロールアンプの点検を！

こんな症状はありませんか

- 煙が出たり、異常なにおいや音がする
- 音が出ないことがある
- 正常に動作しないことがある
- 商品に破損した部分がある
- その他の異常や故障がある

▶ このような症状の時は使用を中止し、故障や事故の防止のために、必ず販売店に点検をご相談ください。

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です）

販売店名	電話（　　）　ー	品番	SA-BX500
お客様ご相談窓口	電話（　　）　ー	お買い上げ日	年　月　日

パナソニック株式会社
AVC ネットワークス社　ネットワーク事業グループ
〒 571-8504 大阪府門真市松生町 1 番 15 号

RQT9222-1MS
H0608RT4118